

平成28年度
全国学力・学習状況調査

～留萌市における結果の概要～

I	調査の概要	1 P
II	教科調査結果の概要	2 P
III	質問紙調査結果の概要	13 P
IV	おわりに	25 P

平成29年1月

留萌市教育委員会

I 調査の概要

1 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査の対象

小学校第6学年、中学校第3学年の原則として全児童生徒

3 調査の内容

(1) 児童生徒に対する調査

① 教科に関する調査

ア 国語A、算数・数学A～主として「知識」に関する問題

○身につけておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容

○実生活において不可欠であり、常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能など

イ 国語B、算数・数学B～主として「活用」に関する問題

○知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力

○様々な課題解決のための構想を立て、実践し、評価・改善する力など

② 質問紙調査

学習意欲、学習方法、学習習慣、生活の諸側面等に関する調査

(2) 学校に対する質問紙調査

学校における指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査

4 調査実施日

平成28年4月19日(火)

5 調査を実施した学校・児童生徒数

	小 学 校		中 学 校	
	実施学校数	児 童 数	実施学校数	生 徒 数
全 国(公立)	19,335 校	1,021,910 人	9,464 校	996,578 人
北海道(公立)	1,046 校	40,277 人	607 校	41,236 人
留 萌 市	5 校	144 人	3 校	153 人

※対象児童生徒の欠席により調査期日に実施できなかった学校は、実施学校数(校)に含まれていない(札幌市を含む)

6 調査結果に関する留意事項

(1) 本調査の結果については、児童生徒が身に付けるべき学力の特定の一部であることや、学校における教育活動の一側面に過ぎないことに留意する必要がある。

(2) 本調査の結果においては、平均正答率、平均正答数等の数値を示しているが、これらの数値のみで必ずしも調査結果のすべてを表すものではなく、総合的に結果を分析・評価する必要がある。また、個々の設問や領域等に注目して学習指導上の課題を把握・分析し、児童生徒一人ひとりの学習改善や学習意欲の向上につなげることも重要である。

Ⅱ 教科調査結果の概要

1 平均正答率から見る学力の状況の概要

(1) 平成28年度調査各教科の平均正答率(%)と全国・北海道との差

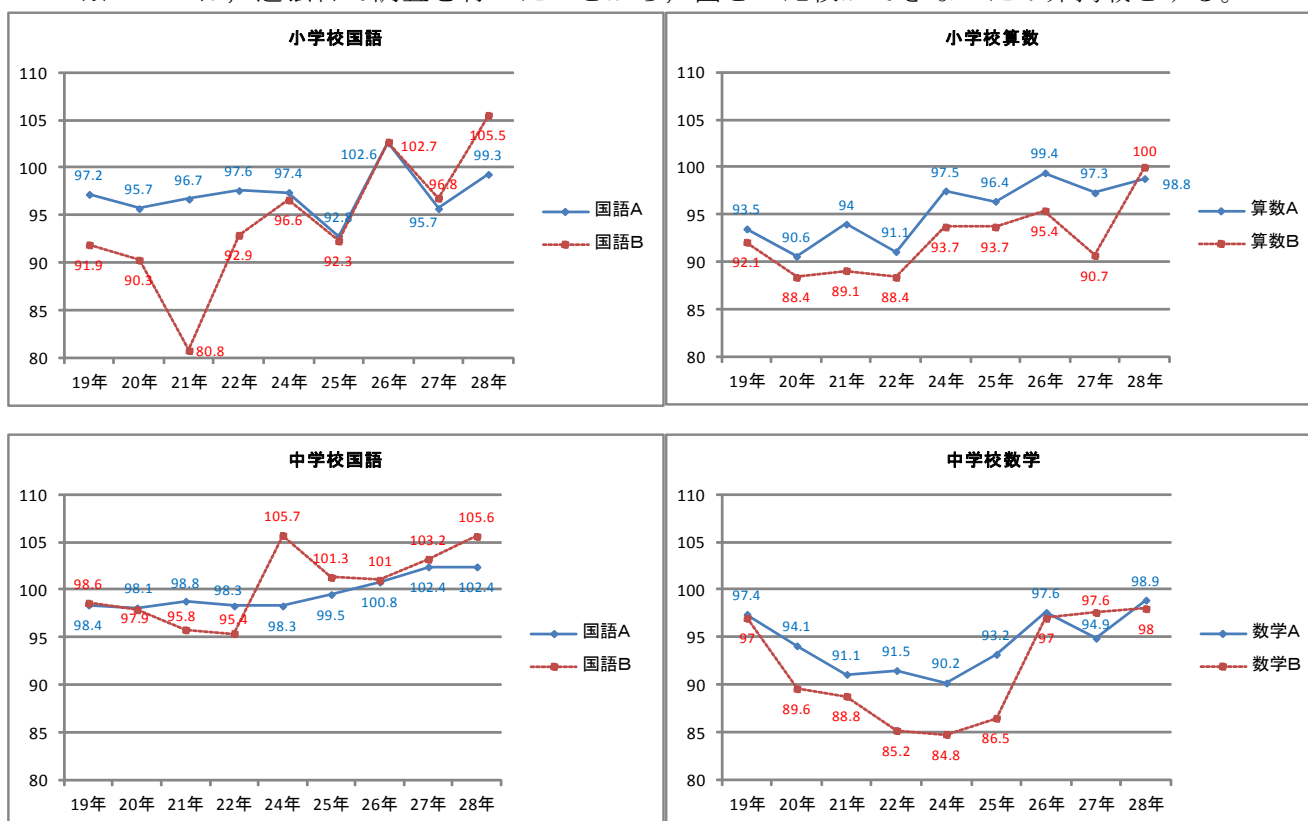
	小 学 校				中 学 校			
	国語A	国語B	算数A	算数B	国語A	国語B	数学A	数学B
留 萌 市	72.4	61.0	76.7	47.2	77.4	70.2	61.5	43.2
北 海 道	71.0	56.0	75.3	44.5	75.1	65.0	61.8	43.3
全 国	72.9	57.8	77.6	47.2	75.6	66.5	62.2	44.1
北海道との差	+1.4	+5.0	+1.4	+2.7	+2.3	+5.2	-0.3	-0.1
全国との差	-0.5	+3.2	-0.9	±0	+1.8	+3.7	-0.7	-0.9

(2) 全国の平均正答率を100としたときの10年間の推移

※調査問題が毎年異なり、平均正答率を単純比較できないため、全国の平均正答率を100とする。

(市の平均正答率÷全国の平均正答率×100で算出)

※H23は、道独自で調査を行ったことから、国との比較ができないため非掲載とする。

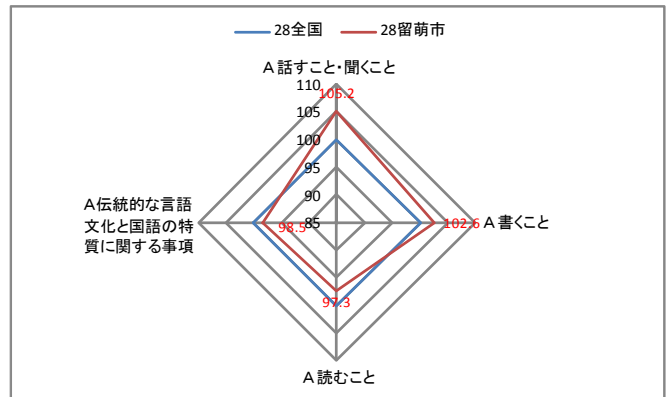


- ・ 全国の平均正答率を上回ったのは小学校国語B，中学校国語A，中学校国語Bであり，小学校算数Bは全国の正答率と同じである。また、小学校国語A，小学校算数Aは北海道の平均正答率を上回っている。
- ・ 10年間の推移から，小学校ではここ3年間は国語A・Bともに全国の平均正答率を上回るか，下回っても差が5ポイント以内に縮まっている。また，算数Aは年々全国の平均正答率に迫り，算数Bも24年度以降上昇傾向にある。また，中学校では国語Aは平成26年度，国語Bは24年度より全国の平均正答率より上回っている。また，数学A・Bともに依然として全国の平均正答率を下回っているが，25年度以降上昇傾向であり，今年は差がいずれも2ポイント以内である。

2 小学校国語A

	平均正答数	平均正答率
留萌市	10.9問／15問	72.4%
北海道	10.7問／15問	71.0%
全国	10.9問／15問	72.9%

(領域別の平均正答率の状況～全国100とする)

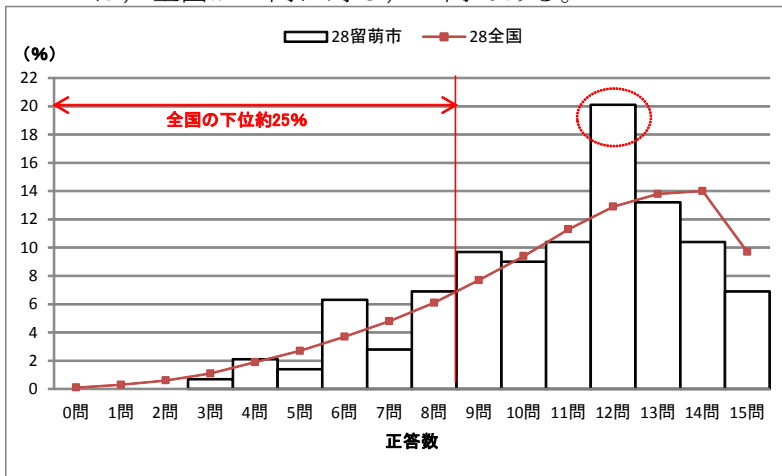


(1) 「領域別正答率」の傾向

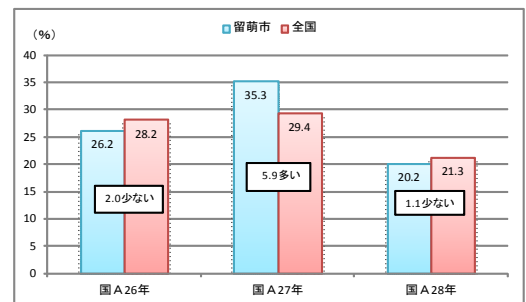
・「話すこと・聞くこと」の領域は、全国と比べやや高い傾向である。

(2) 「正答数分布状況」及び「全国の下位約25%と同じ正答数の範囲に含まれる割合」の傾向

・15問中、正解した児童数が最も多かったのは、全国が14問に対し、12問である。



・下位層に含まれる児童の割合が前年度と比べ15.1ポイントと大きく減り、全国と比べても少なくなっている。



(3) 設問別の正答率の概要

①全国以上の平均正答率の設問から

平均正答率が全国以上の設問数	(H27) 4/14問	(H28) 9/15問
----------------	-------------	-------------

領域	出題の趣旨	設問の概要	留萌市正答率	全国正答率
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	学年別漢字配当表に示されている漢字を正しく書く	漢字を書く (先生に <u>そう</u> だんする)	70.8%	64.2%
話すこと 聞くこと	目的や意図に応じて、収集した情報を関係付けながら話し合う	全校集会で歌う歌を決めるために、どのように話し合っているのか、話し合いの説明として適切なものを選択する	83.3%	79.2%

②全国以下の平均正答率の設問から

領域	出題の趣旨	設問の概要	留萌市正答率	全国正答率
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	ローマ字で表記されたものを正しく読む	ローマ字を読む (h y a k u)	41.7%	50.7%
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	平仮名で表記されたものをローマ字で書く	ローマ字を書く (あさって)	33.3%	41.8%

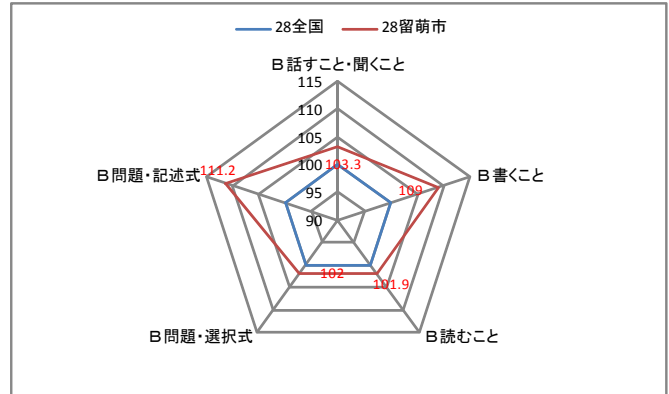
国語Aにおいて、留萌市の児童への指導の改善にあたっては

- ローマ字の読み書きについては、日本語の音節が子音と母音の組み合わせであることを意識し、また、濁音、半濁音、長音、拗音、促音、撥音などについて、音声と関係付けながら規則性があることに気付き、身に付けることができるように指導することが大切である。

3 小学校国語B

	平均正答数	平均正答率
留萌市	6.1問／10問	61.0%
北海道	5.6問／10問	56.0%
全国	5.8問／10問	57.8%

(領域・問題別の平均正答率の状況～全国100とする)

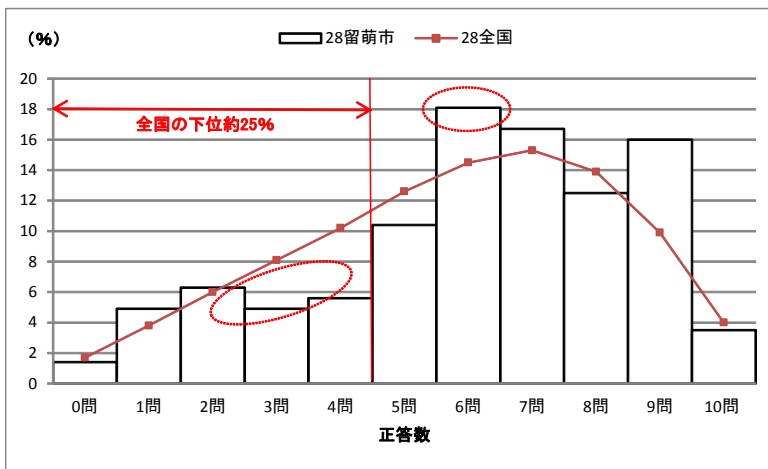


(1) 「領域・問題別正答率」の傾向

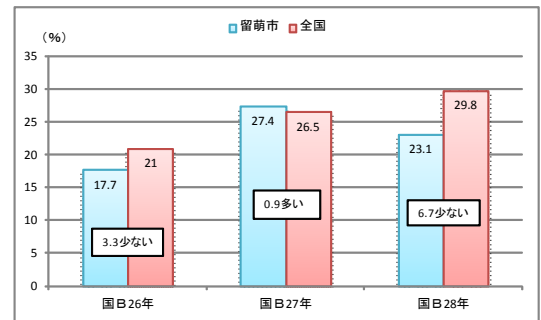
- ・すべての領域が全国を上回り、特に「書くこと」はやや高い傾向である。
- ・記述式の問題については、全国と比べ高い傾向である。

(2) 「正答数分布状況」及び「全国の下位約25%と同じ正答数の範囲に含まれる割合」の傾向

・10問中、正解した児童数が最も多かったのは、全国が7問に対し、6問である。



・下位層に含まれる児童の割合が前年度と比べ4.3ポイント少なく、また、全国と比べても少なくなっている。



(3) 設問別の正答率の概要

①全国以上の平均正答率の設問から

平均正答率が全国以上の設問数	(H27) 3／9問	(H28) 7／10問
----------------	------------	-------------

領域	出題の趣旨	設問の概要	留萌市正答率	全国正答率
書くこと	目的や意図に応じて、グラフを基に、自分の考えを書く	「早ね早起き」活動の課題について、グラフの結果を基に書く (記述式)	61.8%	51.4%
書くこと 読むこと	目的に応じて、文章の内容を的確に押さえ、自分の考えを明確にしながらか読む	「パン職人」について、紹介したい内容をまとめて書く (記述式)	61.8%	52.9%

②全国以下の平均正答率の設問から

領域	出題の趣旨	設問の概要	留萌市正答率	全国正答率
読むこと	目的に応じて、複数の本や文章などを選んで読む	「パン職人」に関する本を選んだ目的の説明として適切なものを選択する	74.3%	77.2%

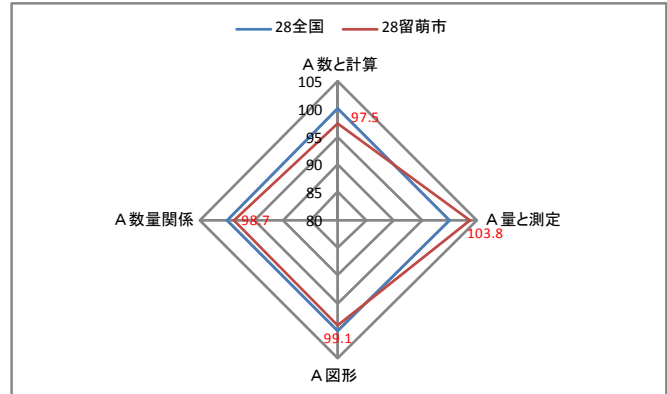
国語Bにおいて、留萌市の児童への指導の改善にあたっては

- 読む目的をもち、その目的に応じて、複数の本や文章などを選んで比べて読むことが必要となる。また、児童が目的や意図に応じて、自分にとって必要な情報の手掛かりとなる語句(キーワード)を決め、それを基に検索することができるように、目次や索引の利用の仕方、事典などの特色について指導することが大切である。

4 小学校算数A

	平均正答数	平均正答率
留萌市	12.3問／16問	76.7%
北海道	12.0問／16問	75.3%
全国	12.4問／16問	77.6%

(領域別の平均正答率の状況～全国100とする)

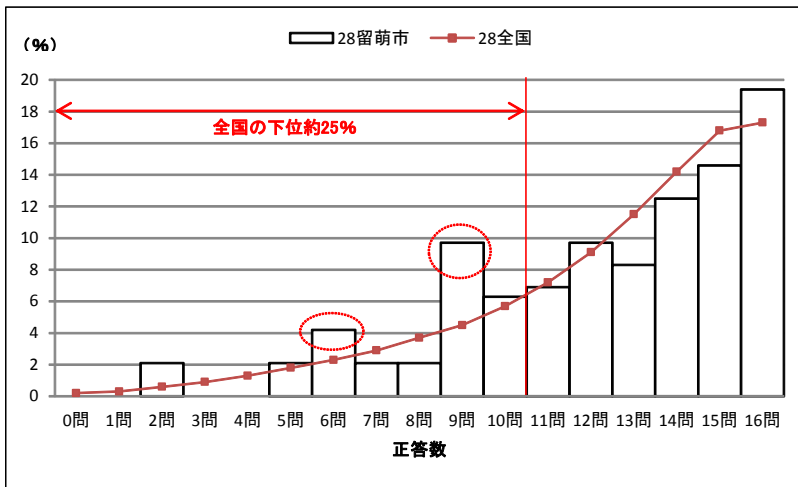


(1) 「領域別正答率」の傾向

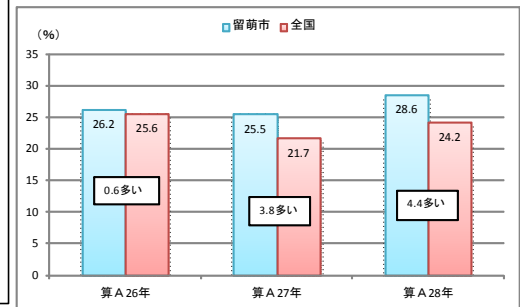
・どの領域も、全国とほぼ同様の傾向である。

(2) 「正答数分布状況」及び「全国の下位約25%と同じ正答数の範囲に含まれる割合」の傾向

・16問中、正解した児童数が最も多かったのは、全国と同様に16問である。



・下位層に含まれる児童の割合が前年度と比べ3.1ポイント多く、特に6問、9問正解という児童が多い。また、全国との差は依然として多くなっている。



(3) 設問別の正答率の概要

①全国以上の平均正答率の設問から

平均正答率が全国以上の設問数	(H27) 7/16問	(H28) 5/16問
----------------	-------------	-------------

領域	出題の趣旨	設問の概要	留萌市正答率	全国正答率
数と計算	末尾の位のそろっていない小数の加法の計算をすることができる	$4.65 + 0.3$ を計算する	83.3%	77.1%
量と測定	単位量当たりの大きさの求め方理解している	8 m^2 に14人座っているシートについて、 1 m^2 当たりの人数を求める式を書く	77.8%	72.0%

②全国以下の平均正答率の設問から

領域	出題の趣旨	設問の概要	留萌市正答率	全国正答率
数と計算	小数の除法の計算をすることができる	$1.8 \div 0.9$ を計算する	70.8%	77.7%
数と計算	除数が1より小さいとき、商が被除数より大きくなることを理解している	$\square \div 0.8$ の商の大きさについて、正しいものを選ぶ	60.4%	64.8%
数と計算	数の大小関係を理解している	7.1, 7, 7.01の中で一番小さい数と、一番大きい数を書く	70.1%	74.1%

算数Aにおいて、留萌市の児童への指導の改善にあたっては

- 小数の乗法及び除法の学習では計算の結果を見積り、計算の結果と見積りの結果が大きく異なっていないかどうかを振り返る習慣を身に付けることができるようにすることが大切である。
- 小数の除法の計算は、除数及び被除数に同じ数をかけても、同じ数でわっても商は変わらないという除法の性質を基に、整数の除法に置き換えることができるように、既習の計算の性質を活用して計算の仕方を考えることができるようにすることが大切である。
- 小数は整数と同じように十進位取り記数法によって表されているので、小数の大小比較も整数と同じ考え方でできることを理解することが大切であり、また、小数の場合についても、数の大きさを相対的に捉えることができるようにすることも大切である。

5 小学校算数B

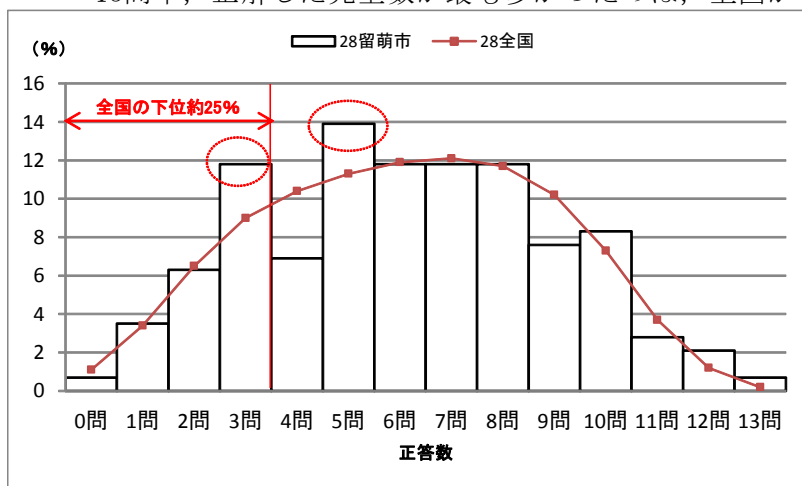
	平均正答数	平均正答率
留萌市	6.1問／13問	47.2%
北海道	5.8問／13問	44.5%
全国	6.1問／13問	47.2%

(1) 「領域・問題別正答率」の傾向

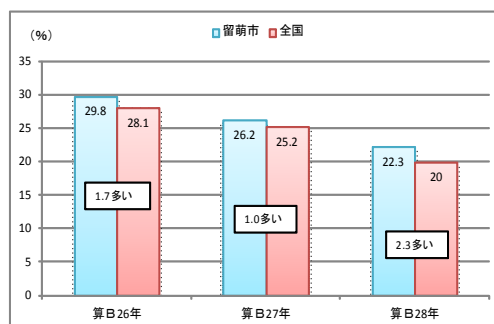
- ・「図形」の領域は、全国と比べ低い傾向である。
- ・選択式の問題については、全国と比べやや低い傾向である。

(2) 「正答数分布状況」及び「全国の下位約25%と同じ正答数に含まれる割合」の傾向

- ・13問中、正解した児童数が最も多かったのは、全国が7問に対し、5問である。



- ・下位層に含まれる児童の割合が前年度と比べ3.9ポイント少なくなっているが、依然として、全国と差は多くなっている。



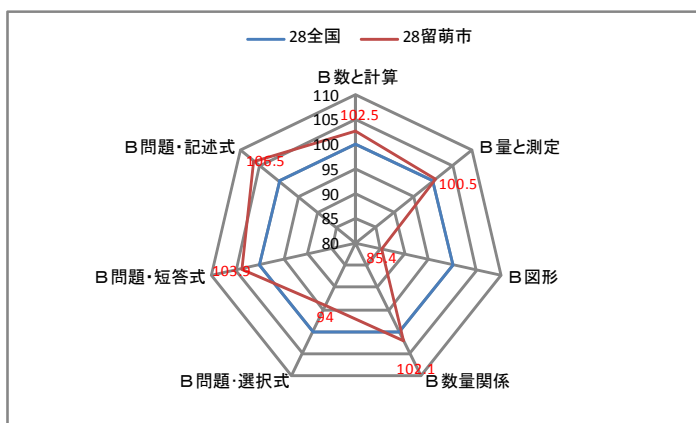
(3) 設問別の正答率の概要

①全国以上の平均正答率の設問から

平均正答率が全国以上の設問数	(H27) 1/13問	(H28) 7/13問
----------------	-------------	-------------

領域	出題の趣旨	設問の概要	留萌市正答率	全国正答率
数量関係	グラフから貸出冊数を読み取り、それを根拠に、示された事柄が正しくない理由を記述できる	A小学校とB小学校の図書委員が表したグラフを見比べて読みとった事柄として正しくない事柄について、正しくないわけを書く (記述式)	30.6%	24.9%

(領域・問題別の平均正答率の状況～全国100とする)



数と計算 数量関係	示された式に数値を当てはめて、目標のタイムを求めることができる	40mハードル走の目標のタイムを求める式に8.1と4を当てはめて、まなみさんの目標のタイムを求める式と答えを書く	54.9%	50.5%
--------------	---------------------------------	--	-------	-------

②全国以下の平均正答率の設問から

領域	出題の趣旨	設問の概要	留萌市正答数	全国正答率
図形	正方形に内接する円の半径について理解している	1辺が9cmの正方形に内接する円をかくために、コンパスの鉛筆の先を合わせる位置を選ぶ	65.3%	76.5%
数量関係	示された事柄について、二つの表を基に読み取ることができない事柄を特定することができる	示された二つの表だけでは判断できないものを選ぶ	68.1%	70.7%

算数Bにおいて、留萌市の児童への指導にあたっては

- 正方形に内接する円をかく活動や、円を用いて二等辺三角形を作図する活動など、図形の性質を基に作図する経験を十分に行うことができるような場を設けることが大切である。
- 日常生活の問題解決のために、資料を集めて分類整理し表やグラフに表した上で分析すること、また、示された資料から読み取ることができない事柄を判断することが大切である。
- 複数のグラフを比較するときは、それぞれの目盛りの大きさなどに留意して的確に読み取ることができるようにすることが大切である。
- 根拠となる事柄が不足している説明を取り上げ、説明として何が不足しているのかについて話し合う活動が考えられ、その際、話し合ったことを児童一人一人が振り返って確認できるようにすることも大切です。

6 中学校国語A

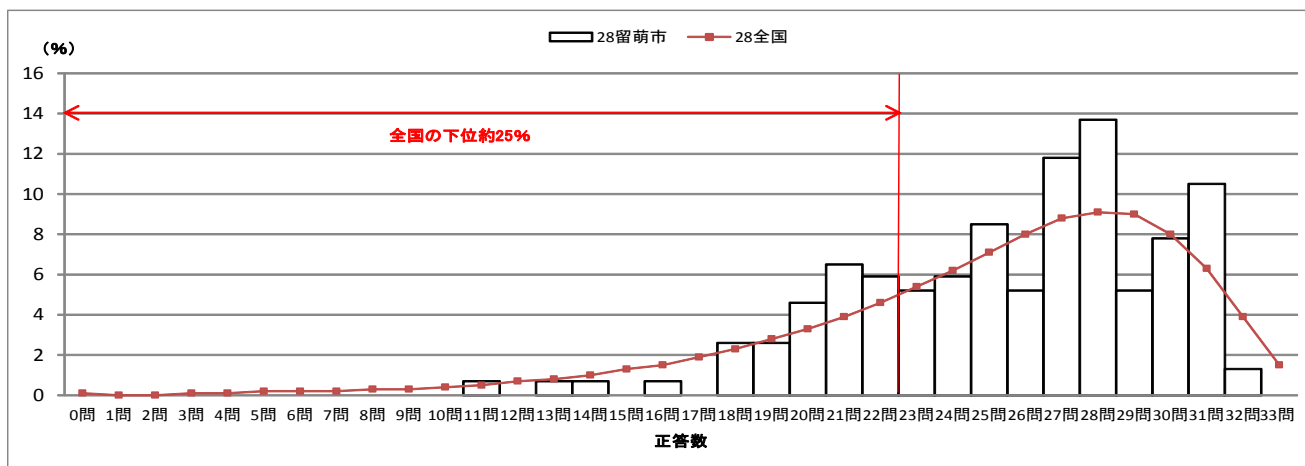
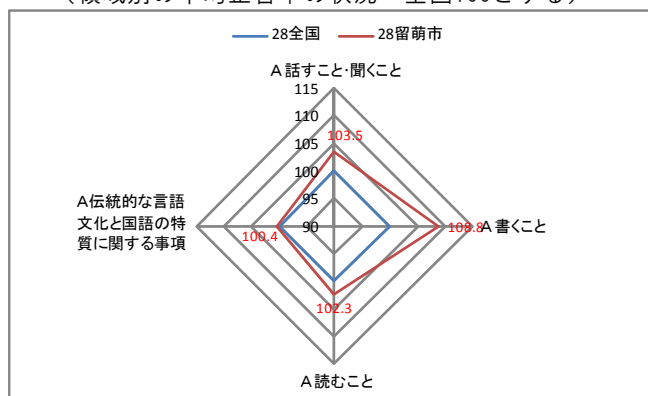
	平均正答数	平均正答率
留萌市	25.5問／33問	77.4%
北海道	24.8問／33問	75.1%
全国	25.0問／33問	75.6%

(1) 「領域別正答率」の傾向

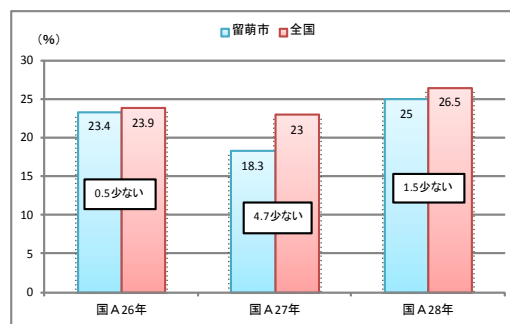
- ・すべての領域が全国よりも高く、特に「書くこと」は高い傾向である。

(2) 「正答数分布状況」及び「全国の下位約25%と同じ正答数の範囲に含まれている割合」の傾向

(領域別の平均正答率の状況～全国100とする)



- ・ 33問中、正解した生徒数が最も多かったのは、全国と同様に28問である。
- ・ 下位層に含まれる生徒の割合が前年度と比べ6.7ポイント多くなっているが、全国と比べると依然として少なくなっている。



(3) 設問別の正答率の概要

①全国以上の平均正答率の設問から

平均正答率が全国以上の設問数	(H 2 7) 22/33問	(H 2 8) 27/33問
----------------	----------------	----------------

領域	出題の趣旨	設問の概要	留萌市正答率	全国正答率
書くこと	伝えたい事柄について、根拠を明確にして書く	質問に対する答えが明確になるように適切な言葉を書く	86.9%	78.7%
話すこと・聞くこと	互いの発言を検討して自分の考えを広げる	話し合いを踏まえた発言として適切なものを選択する	69.9%	62.0%
書くこと	文章を読み返し、文の使い方などに注意して書く	答えの文章を直した意図として適切なものを選択する	71.2%	64.7%

②全国以下の平均正答率の設問から

領域	出題の趣旨	設問の概要	留萌市正答率	全国正答率
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	文字の形や大きさ、配列に注意して書く	題名の下書きをどのように書き直したのかを説明したものとして適切なものを選択する	23.5%	36.4%
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直して読む	歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直す(追ひし)	71.2%	80.2%

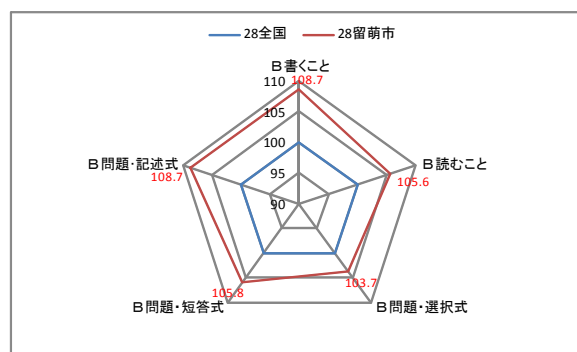
国語Aにおいて、留萌市の生徒への指導にあたっては

- 書写の学習では、特徴的な事例を示し、全体で観点を確認した後、個人やグループで書いたものを検討するなどの学習活動が有効である。また、社会生活の中で見られる文字の大きさや配列の工夫などについて適宜取り上げ、目的や必要に応じて効果的に書くことを意識させることが大切である。
- 文語のきまりについては、古典などの文章を音読したり朗読したりすることを通して理解することができるように指導することが大切である。

7 中学校国語B

	平均正答数	平均正答率
留萌市	6.3問/9問	70.2%
北海道	5.8問/9問	65.0%
全国	6.0問/9問	66.5%

(領域・問題別の平均正答率の状況～全国100とする)

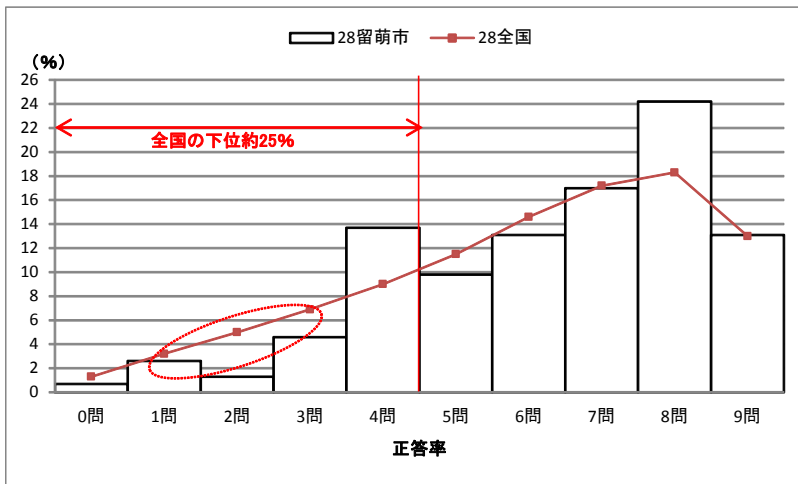


(1) 「領域・問題別正答率」の傾向

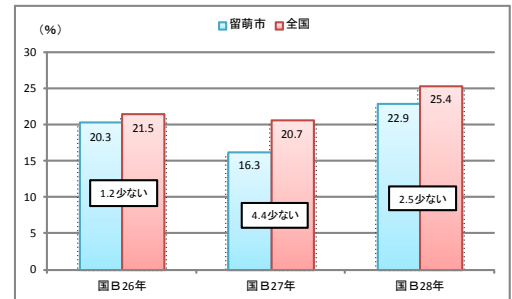
- ・ 「書くこと」の領域は、全国と比べ高く、「読むこと」の領域もやや高い傾向である。
- ・ 記述式の問題については、全国と比べ高く、短答式の問題もやや高い傾向である。

(2) 「正答数分布状況」及び「全国の下位約25%と同じ正答数に含まれる割合」の傾向

- ・ 9問中、正解した生徒数が最も多かったのは、全国と同様に8問である。
- ・ 全国と比べ、0～3問しか正解できない生徒の割合は少なくなっている。



- ・ 下位層に含まれる生徒の割合が前年度と比べ6.6ポイント多いが、今年度も全国と比べ少なくなっている。



(3) 設問別の正答率の概要

①全国以上の平均正答率の設問から

平均正答率が全国以上の設問数	(H27) 7/9問	(H28) 9/9問
----------------	------------	------------

領域	出題の趣旨	設問の概要	留萌市正答率	全国正答率
書くこと 読むこと	文章の構成や表現の仕方について、根拠を明確にして自分の考えを具体的に書く	ちらしの表と裏の表現の工夫とその効果を書く (記述式)	78.4%	68.0%
読むこと	文章の中心的部分と付加的な部分とを読み分け、要旨を捉える	ちらしの表と裏から分かる「暮らしの中の伝統文化展」が開かれるねらいとして適切なものを選択する	81.0%	76.2%

②全国以下の平均正答率の設問から
取り上げるべき設問なし

国語Bにおいて、留萌の生徒への指導にあたっては

- 目的に応じて、必要な情報を取り出しながらか資料を読み、見出しを付けながら取り出した情報を整理するなどの学習活動が大切である。

8 中学校数学A

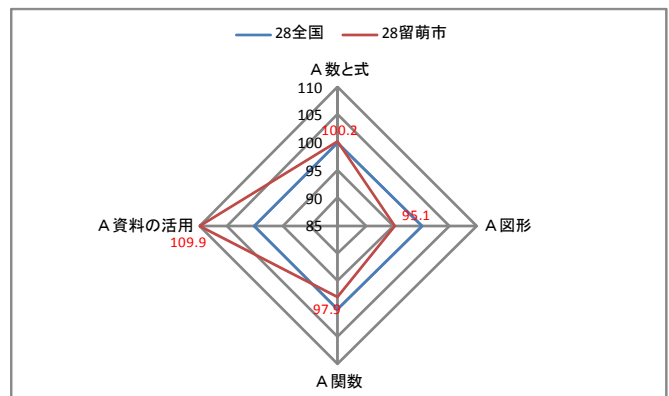
	平均正答数	平均正答率
留萌市	22.1問/36問	61.5%
北海道	22.2問/36問	61.8%
全国	22.4問/36問	62.2%

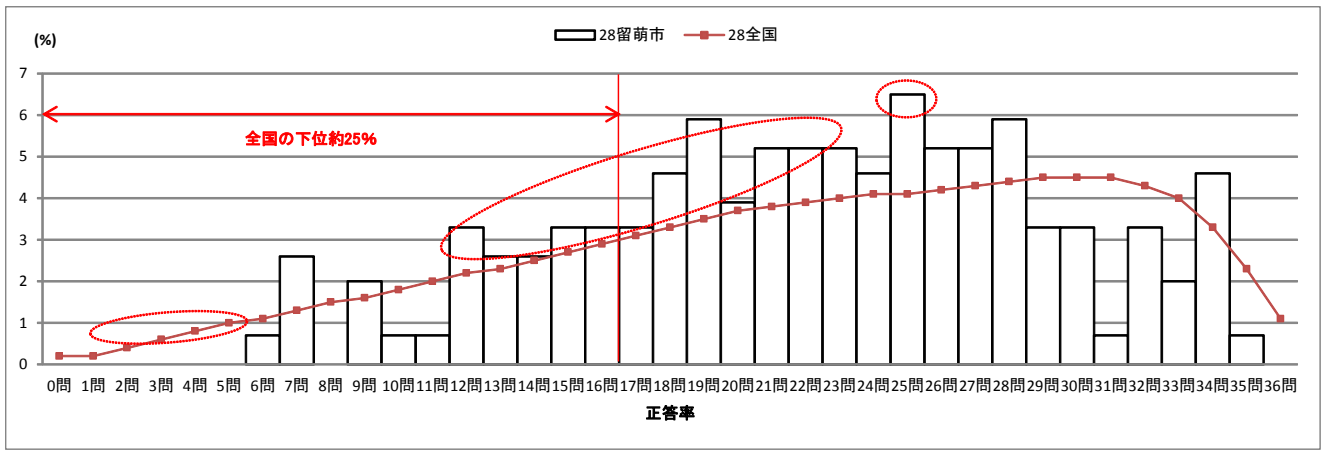
(1) 「領域別正答率」の傾向

- ・ 「資料の活用」の領域は、全国と比べ高く、一方、「図形」の領域はやや低い傾向である。

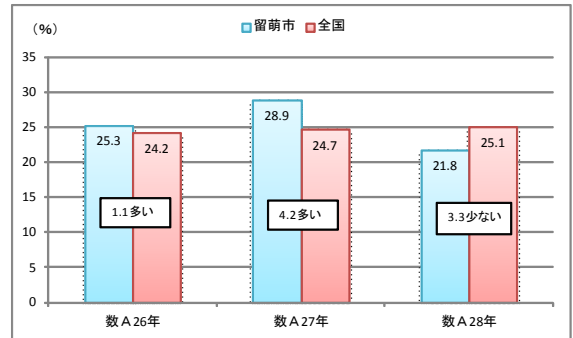
(2) 「正答数分布状況」及び「全国の下位約25%と同じ正答数の範囲に含まれる割合」の傾向

(領域別の平均正答率の状況～全国100とする)





- 36問中、正解した生徒数が最も多かったのは、全国が29～31問に対し、25問である。
- 12問から28問正解の生徒の割合が全国を上回り、散らばりの度合いが少ない状況である。
- 下位層に含まれる生徒の割合が前年度と比べ7.1ポイント少なく、全国と比べても少なくなっている。また、0問から5問正解の生徒は全くいない状況である。



(3) 設問別の正答率の概要

①全国以上の平均正答率の設問から

平均正答率が全国以上の設問数	(H 2 7) 7 / 36問	(H 2 8) 17 / 36問
----------------	-----------------	------------------

領域	出題の趣旨	設問の概要	留萌市正答率	全国正答率
資料の活用	測定値が与えられた場面において、近似値と誤差の意味を理解している	ある郵便物の重さについて、デジタルはかりで表示された値を基に、真の値の範囲を選ぶ	49.7%	34.7%
資料の活用	資料を整理した表から最頻値を読み取ることができる	読んだ本の冊数と人数の関係をまとめた表から、読んだ本の冊数の最頻値を求める	58.2%	45.5%
数と式	具体的な場面における数値の関係を捉え、比例式をつくることができる	縦と横の長さの比が5 : 8の長方形の看板について、縦の長さが45cmのときの横の長さx cmを決めるための比例式をつくる	64.7%	52.3%

②全国以下の平均正答率の設問から

領域	出題の趣旨	設問の概要	留萌市正答率	全国正答率
関数	具体的な事象における2つの数量の関係が、反比例の関係になることを理解している	反比例を表した事象を選ぶ	29.4%	42.0%
関数	反比例のグラフ上の点の座標から、xとyの関係を式で表すことができる	反比例のグラフから式を求める	23.5%	34.5%
数と式	一元一次方程式の解の意味を理解している	一元一次方程式 $2x = x + 3$ の解について、正しい記述を選ぶ	36.6%	47.2%
図形	空間における直線と直線との位置関係(辺と辺とがねじれの位置にあること)を理解している	三角柱において、与えられた辺とねじれの位置にある辺を書く	65.4%	75.5%

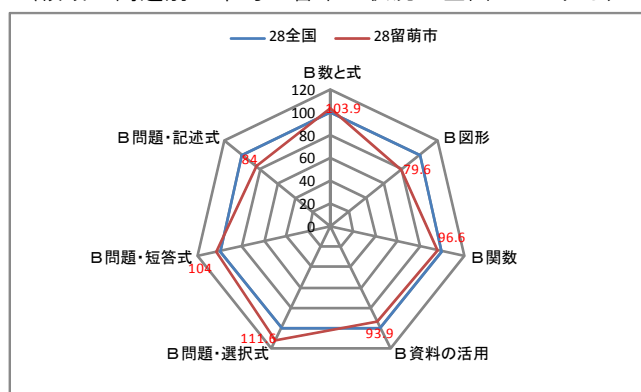
数学Aにおいて、留萌市の生徒への指導の改善にあたっては

- 事象における2つの数量の関係について、一方の値が決めればもう一方の値がただ1つに決まるかどうかを調べる活動を通して、2つの数量が関数関係にあるかどうかを確認し、どのような関数かを判断する場面を設定することが重要である。さらに、それらの数量の関係を式に表すことにより、式の形から2つの数量がどのような関数なのかを判断できることを理解できるようにすることが大切である。
- グラフの特徴と式を関連付けて考察する場面を設定し、反比例のグラフからxとyの関係を式で表すことができるように指導することが大切である。
- 様々な数を方程式の文字に代入して、それらが解であるかを検討する場面を設定し、方程式の解の意味を理解できるように指導することが大切である。
- 空間図形について見取図を見るだけでなく、立体の模型を用いて、辺や面の位置関係を捉える活動を取り入れることが考えられる。その際、立体の模型に対し、直線と見立てた鉛筆などを各辺に当てたり、平面と見立てた下敷きなどを各面に当てたりして、考察の対象を潜在化させた上で、直線や平面の位置関係を捉えられるようにすることが大切である。

9 中学校数学B

	平均正答数	平均正答率
留萌市	6.5問／15問	43.2%
北海道	6.5問／15問	43.3%
全国	6.6問／15問	44.1%

(領域・問題別の平均正答率の状況～全国100とする)

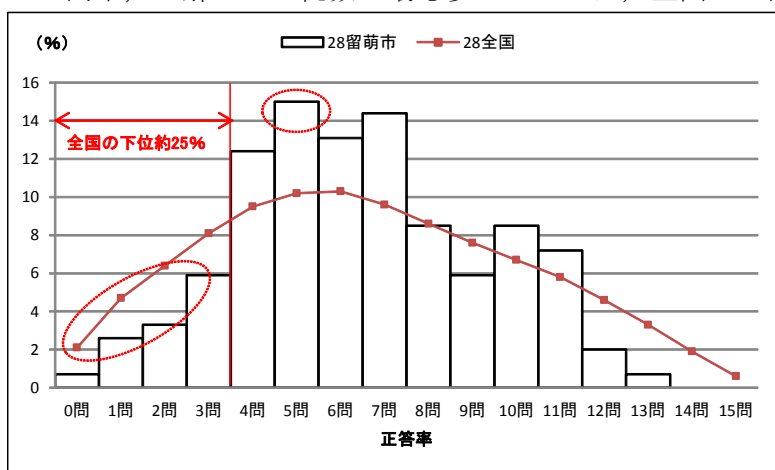


(1) 「領域・問題別正答率」の傾向

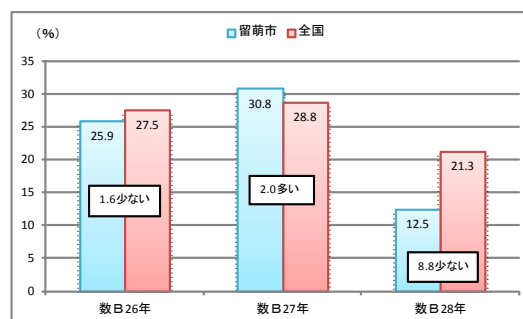
- ・「図形」の領域は、全国と比べ低い傾向である。
- ・選択式の問題については、全国と比べやや高く、一方、記述式の問題は低い傾向である。

(2) 「正答数分布状況」及び「全国の下位約25%と同じ正答数の範囲に含まれる割合」の傾向

・15問中、正解した生徒数が最も多かったのは、全国が6問に対し、5問である。



・下位層に含まれる生徒の割合が前年度と比べ18.3ポイント少なくなり、大きく改善された。また、全国と比べても大幅に少なくなっている。



(3) 設問別の正答率の概要

①全国以上の平均正答率の設問から

平均正答率が全国以上の設問数	(H27) 5／15問	(H28) 7／15問
----------------	-------------	-------------

領域	出題の趣旨	設問の概要	留萌市正答率	全国正答率
関数	条件を基に、表から数量の変化や対応の特徴を捉え、 x の値に対応する y の値を求めることができる	一次関数の表から $x = 4$ のときの y の値を求める	69.3%	59.1%
数と式	問題場面における考察の対象を明確に捉えることができる	最初に決めた数が5のとき、手順通りに求めた数を書く	86.3%	76.4%

②全国以下の平均正答率の設問から

領域	出題の趣旨	設問の概要	留萌市正答率	全国正答率
関数	加えるべき条件を判断し、それが適している理由を説明することができる	$x = 4$ のとき $y = 9$ になるように、 x と y の間の関係を書き加えることについて、正しい記述を選び、その理由を説明する (記述式)	11.1%	20.6%
数と式	与えられた式を用いて、問題を解決する方法を数学的に説明することができる	文字を使って手順通りに求めた数から、最初に決めた数を当てる方法を説明する (記述式)	7.8%	15.4%
関数	事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができる	A車とB車について、式やグラフを用いて、2つの総費用が等しくなる使用年数を求める方法を説明する (記述式)	22.9%	30.3%
図形	付加された条件の下で、新たな事柄を見いだし、説明することができる	$DA : DC = 1 : 2$ のときの $\triangle DEC$ がどのような三角形になるかを説明する (記述式)	30.1%	37.3%

数学Bにおいて、留萌市の生徒への指導の改善にあたっては

- 前提となる条件が不足している問題について考察する場面を設定し、付加する条件を判断し、それが適している理由を説明できるように指導することが大切である。
- 文字を用いて処理した手順を数学的に考察する場面を設定することで、処理した式を読み取り、問題解決の方法を説明することができるように指導することが大切である。
- 様々な問題を数学を活用して解決できるようにするためには、問題解決の方法に焦点を当て、「用いるもの」と「用い方」を明確にして問題解決の方法を説明する活動を充実することが大切である。その際、問題解決のために表した表・式・グラフをどのように用いればよいか説明し合う場面を設定し、検討する活動を充実させることが大切である。
- 新たに条件を加えた際に、見いだした事柄の前提に当たる条件と、それによって説明される結論を明確にして表現する活動を取り入れることが大切である。

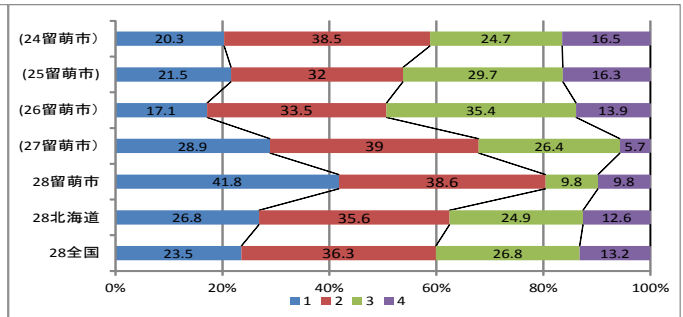
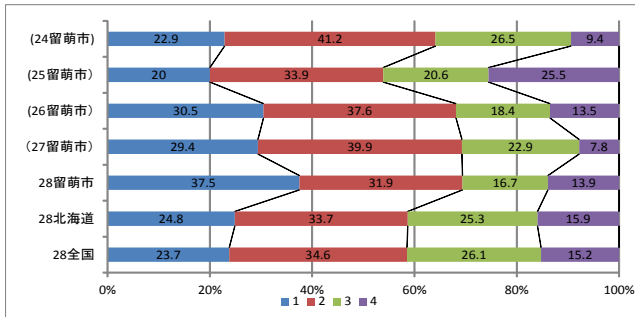
Ⅲ 質問紙調査結果の概要

※各質問項目に対するグラフの左が小学校、右が中学校である。

1 学習に対する関心・意欲・態度<児童生徒> 学習態度・学習規律<学校>

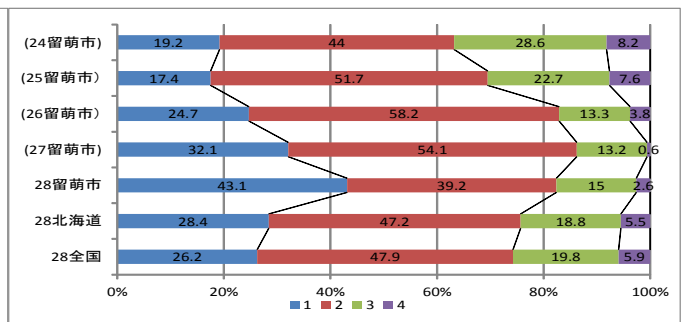
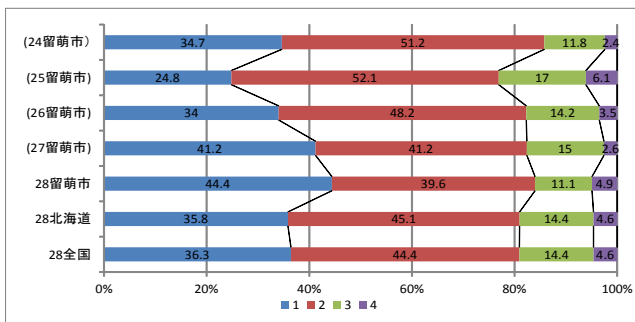
(1) 国語の勉強は好きですか

- 1 当てはまる 2 どちらかといえば、当てはまる 3 どちらかといえば、当てはまらない
4 当てはまらない



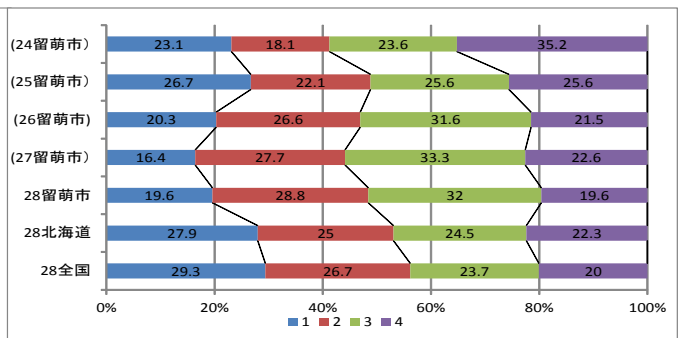
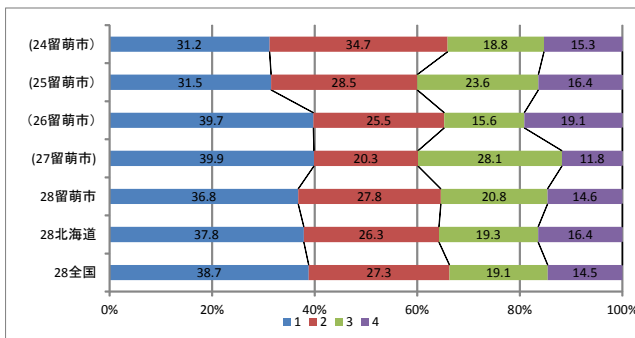
(2) 国語の授業の内容はよく分かりますか

選択肢は(1)と同様



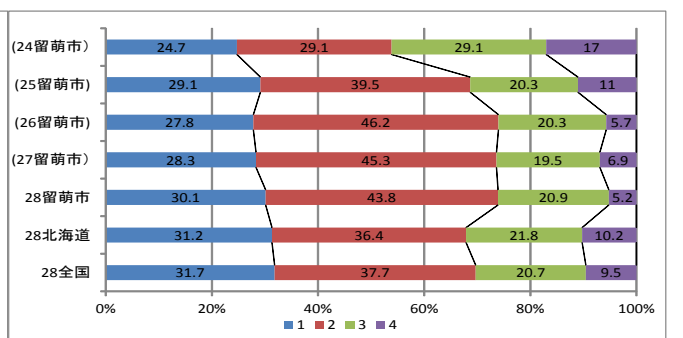
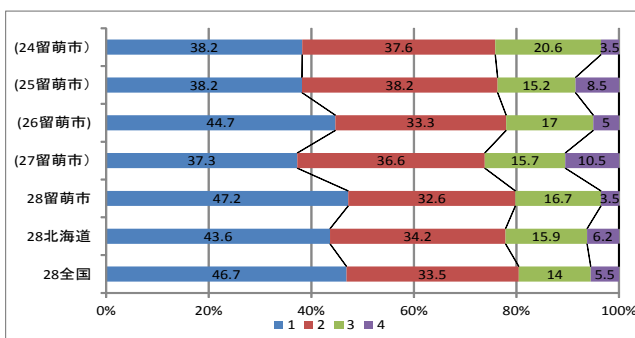
(3) 算数(数学)の勉強は好きですか

選択肢は(1)と同様



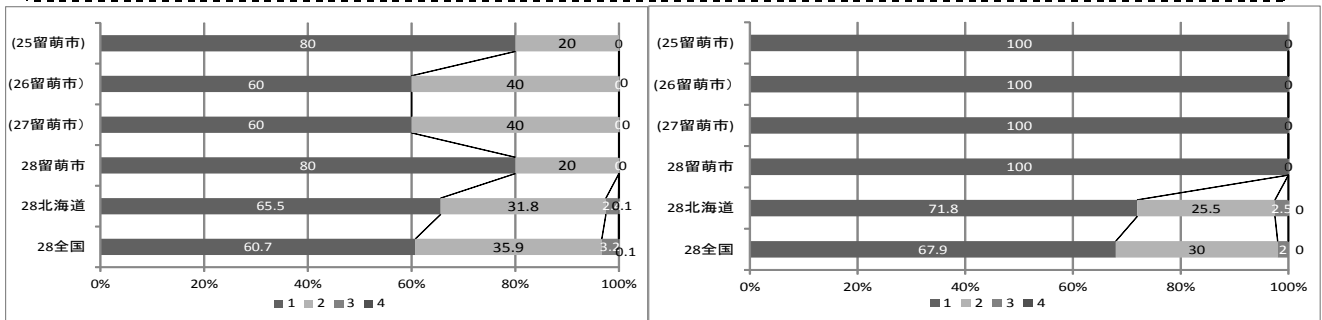
(4) 算数(数学)の授業の内容はよく分かりますか

選択肢は(1)と同様



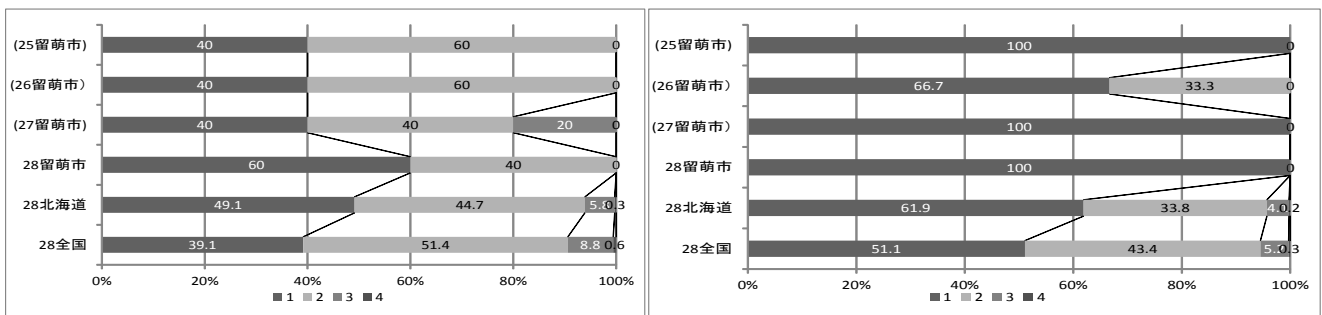
(5) 調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、学習規律(私語をしない、話をしている人の方を向いて聞く、聞き手に向かって話をする、授業開始のチャイムを守るなど)の維持を徹底しましたか

1 よく行った 2 どちらかといえば、行った 3 あまり行っていない 4 全く行っていない



(6) 調査対象学年の児童生徒は、授業中の私語が少なく、落ち着いていると思いますか

1 そのとおりだと思う 2 どちらかといえば、そう思う 3 どちらかといえば、そう思わない 4 そう思わない



【小学校】

- ・国語の勉強は好きであると肯定的に回答した児童の割合は全国より相当高い。
- ・算数の勉強が好きである、授業の内容はよく分かると肯定的に回答した児童の割合はともに前年度より増加している。
- ・すべての学校で学習規律の維持の徹底がなされ、児童は落ち着いた授業態度である。

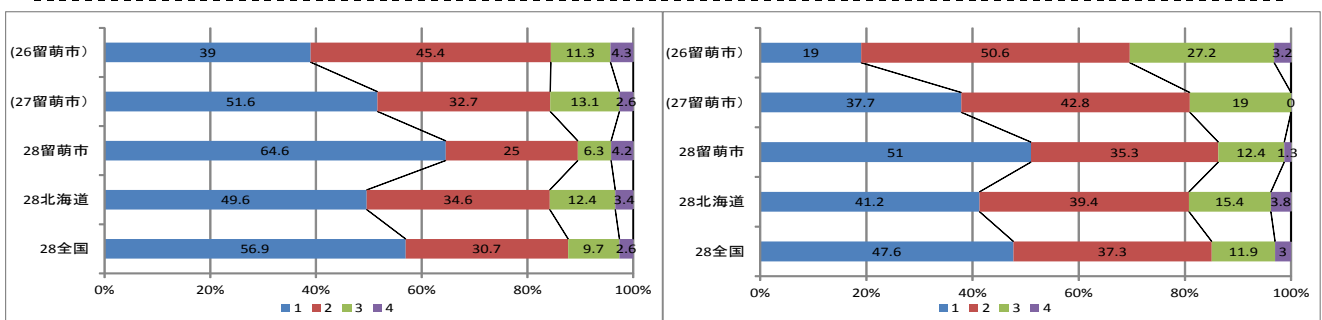
【中学校】

- ・国語の勉強が好きであると肯定的に回答した生徒の割合は前年度より相当増加し、全国よりも相当高い。
- ・数学の勉強が好きであると肯定的に回答した生徒の割合は前年度より増加したが、依然として全国より低い。
- ・すべての学校で学習規律の維持の徹底がなされ、生徒は落ち着いた授業態度である。

2 学習状況(言語活動・指導状況) <児童生徒> 指導方法・言語活動<学校>

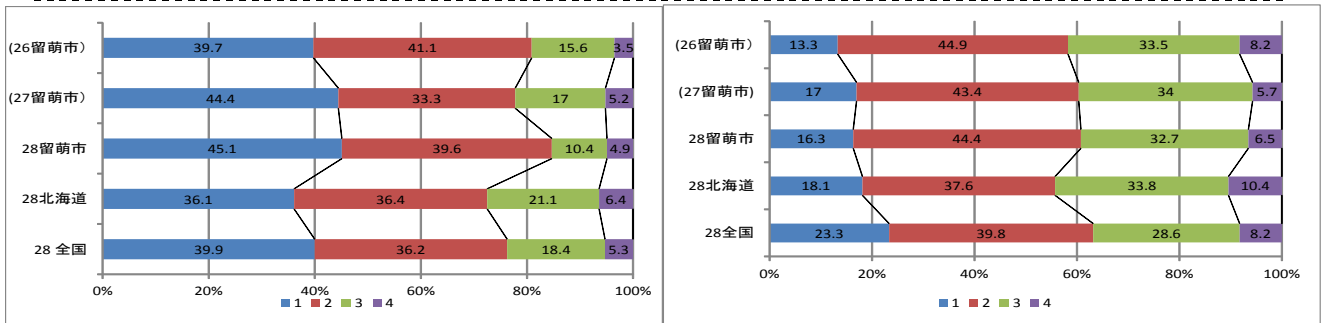
(1) 5年生までに(1, 2年生のとき)に受けた授業のはじめに、目標(めあて・ねらい)が示されていたと思いますか

1 当てはまる 2 どちらかといえば、当てはまる 3 どちらかといえば、当てはまらない 4 当てはまらない



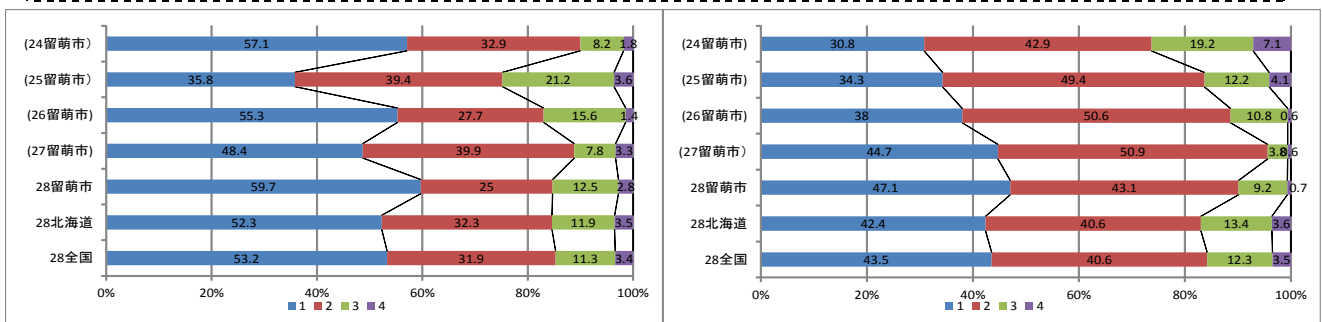
(2) 5年生までに(1, 2年生のとき)に受けた授業の最後に、学習内容を振り返る活動をよく行っていたと思いますか

選択肢は(1)と同様



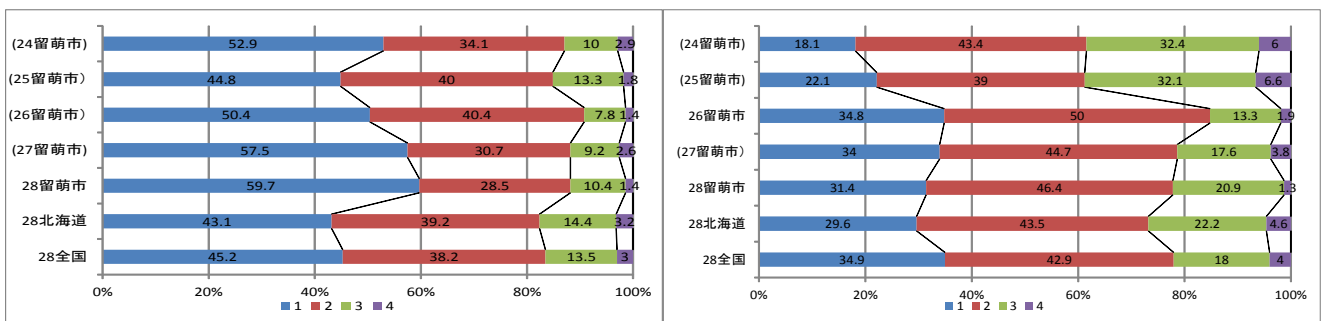
(3) 5年生まで(1, 2年生のとき)に受けた授業では、自分の考えを発表する機会が与えられていたと思いますか

選択肢は(1)と同様



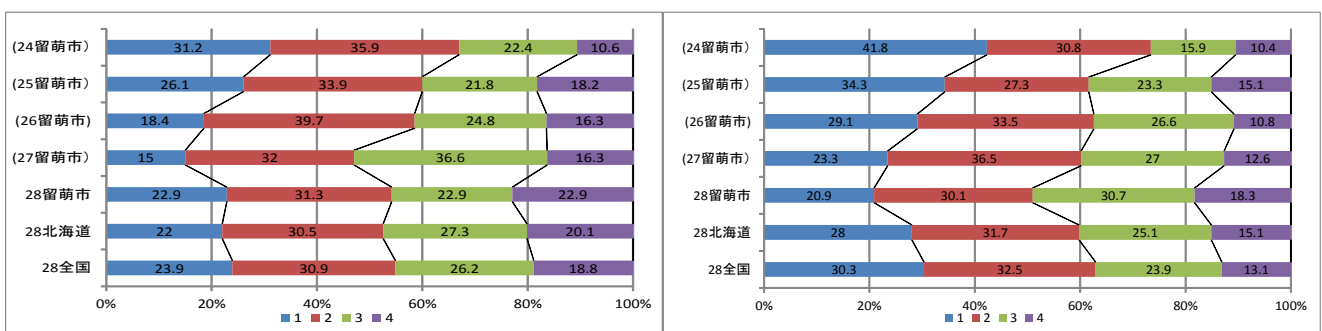
(4) 5年生まで(1, 2年生のとき)に受けた授業では、学級の友達との間(生徒との間)で話し合う活動をよく行っていたと思いますか

選択肢は(1)と同様



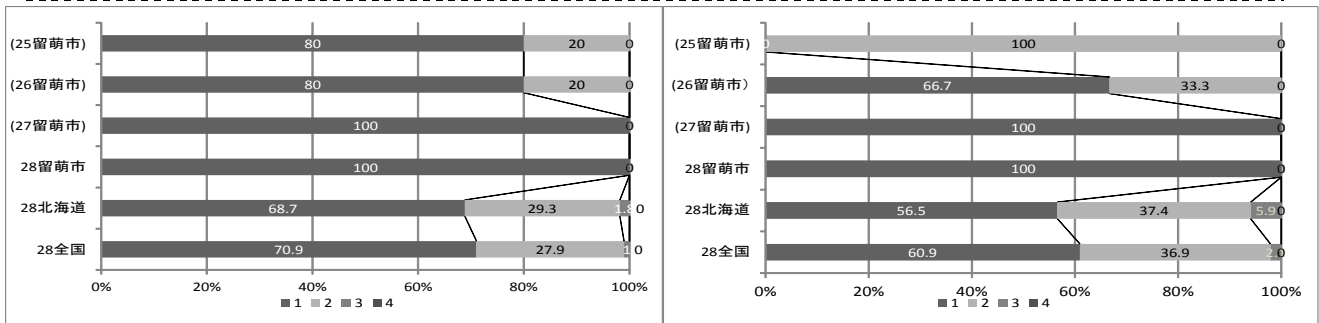
(5) 学校の授業などで、自分の考えを他の人に説明したり、文章に書いたりすることは難しいと思いますか

- 1 そう思う 2 どちらかといえば、そう思う 3 どちらかといえば、そう思わない
4 そう思わない



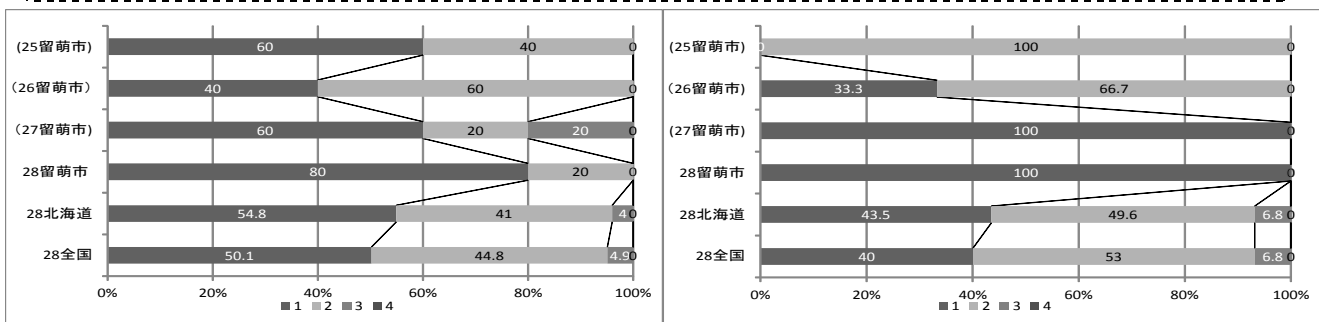
(6) 調査対象学年の児童(生徒)に対して、前年度までに、授業の冒頭で目標(めあて・ねらい)を示す活動を計画的に取り入れましたか

1 よく行った 2 どちらかといえば、行った 3 あまり行っていない 4 全く行っていない



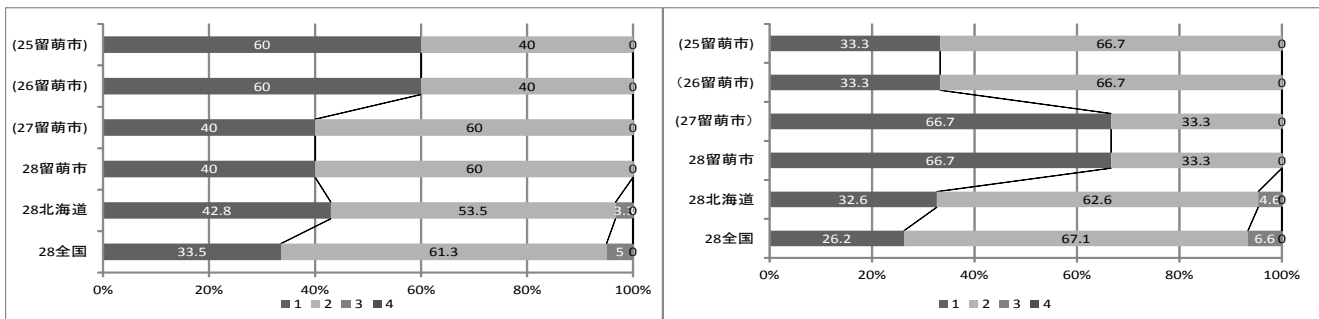
(7) 調査対象学年の児童(生徒)に対して、前年度までに、授業の最後に学習したことを振り返る活動を計画的に取り入れましたか

選択肢は(6)に同様



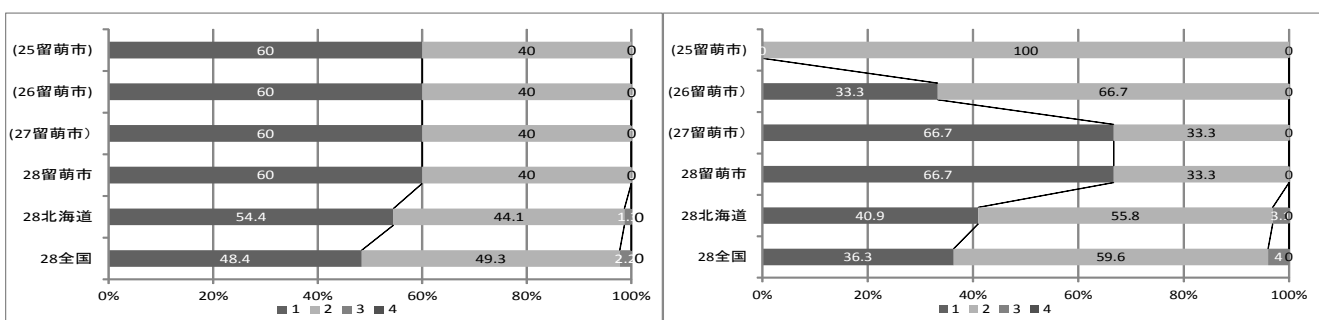
(8) 調査対象学年の児童(生徒)に対して、前年度までに、様々な考えを引き出し、思考を深めたりするような発問や指導をしましたか

選択肢は(6)に同様



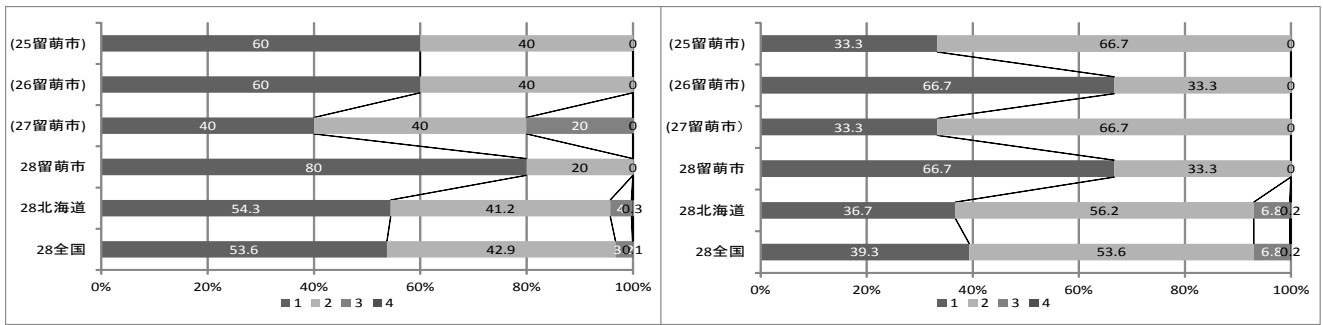
(9) 調査対象学年の児童(生徒)に対して、前年度までに、発言や活動の時間を確保して授業を進めましたか

選択肢は(6)と同様



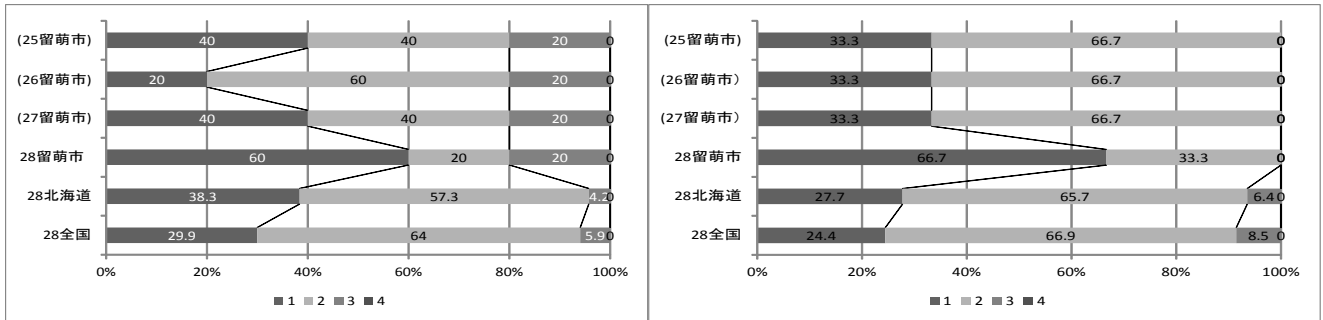
(10) 調査対象学年の児童(生徒)に対して、前年度までに、学級やグループで話し合う活動や授業などで行いましたか

選択肢は(6)と同様



(11) 調査対象学年の児童（生徒）に対して、前年度までに、自分で調べたことや考えたことを分かりやすく文章を書かせる指導をしましたか。

選択肢は（6）と同様



【小学校】

- ・授業のはじめの目標の提示，最後での学習内容の振り返る活動が行われていると肯定的に回答した児童の割合はともに前年度より増加している。
- ・昨年度と比べ，すべての学校で学級やグループで話し合う活動を授業に取り入れている。

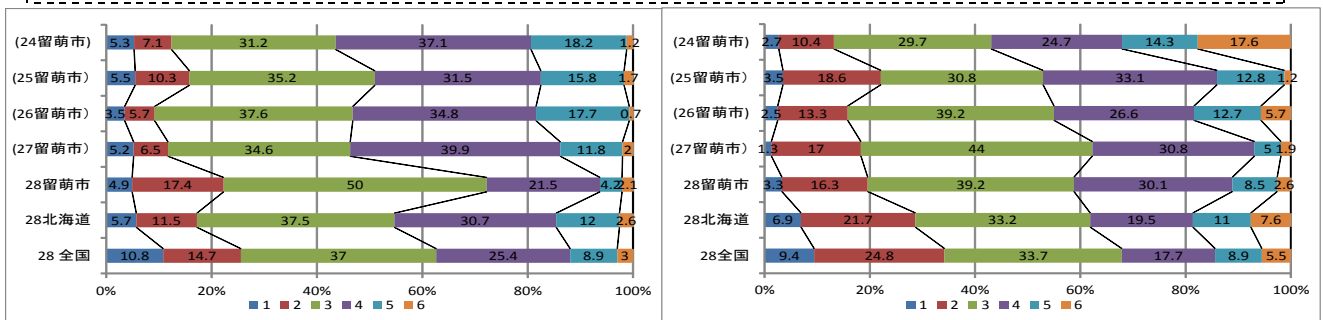
【中学校】

- ・自分の考えを発表する機会が与えられていたと思うと肯定的に回答した生徒の割合は，年々増加傾向にあり，また全国より高い。
- ・授業などで，自分の考えを他の人に説明したり，文章に書いたりすることは難しいと思うと回答した生徒の割合は，全国より相当低い。
- ・すべての学校が授業の冒頭で目標を提示したり，授業の最後に学習したことを振り返る活動を計画的に取り入れると回答したのに対し，目標の提示には約15%，振り返る活動には約40%の生徒はあまり行っているとは思っていないと回答した。
- ・昨年と比べ，学校では学級やグループで話し合う活動を授業に取り入れたり，自分で調べたことや考えたことを分かりやすく文章を書かせる指導を行っているのが増加している。

3 学習時間等＜児童生徒＞ 家庭学習＜学校＞

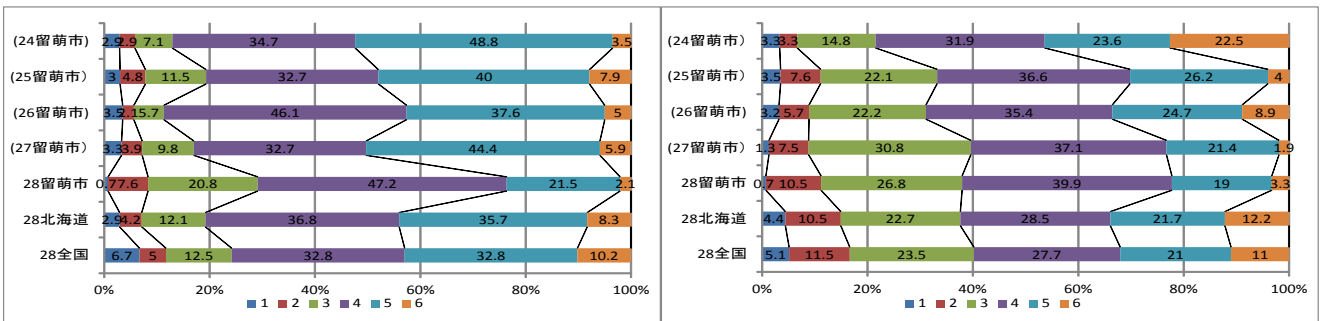
(1) 学校の授業時間以外に，普段（月～金曜日），1日当たりどれくらいの時間，勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師に教わっている時間も含む）

- 1 3時間以上 2 2時間以上，3時間より少ない 3 1時間以上，2時間より少ない
4 30分以上，1時間より少ない 5 30分より少ない 6 全くしない



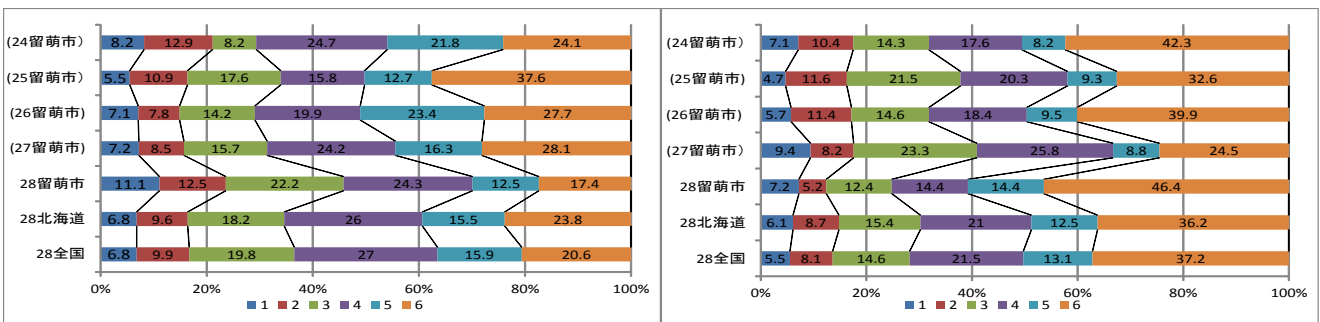
(2) 土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか(学習塾で勉強している時間や家庭教師に教わっている時間も含む)

- 1 4時間以上 2 3時間以上、4時間より少ない 3 2時間以上、3時間より少ない
4 1時間以上、2時間より少ない 5 1時間より少ない 6 全くない



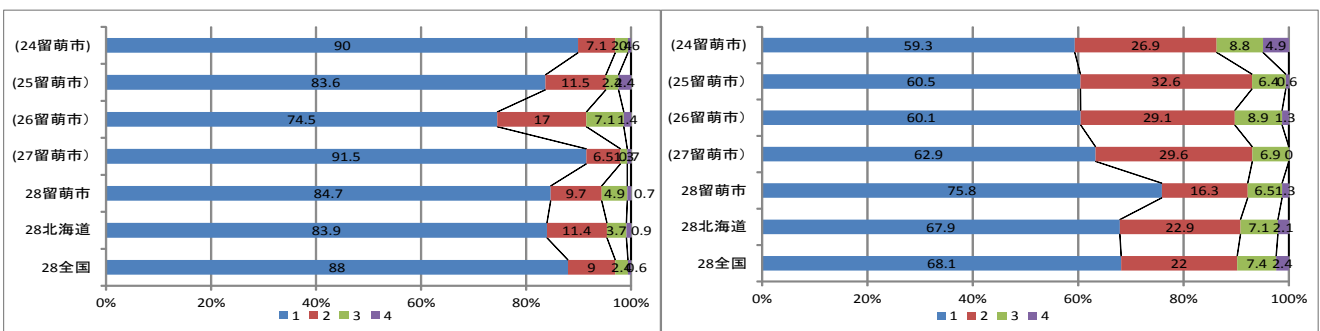
(3) 学校の授業時間以外に、普段(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、読書をしますか(教科書や参考書、漫画や雑誌は除く)

- 1 2時間以上 2 1時間以上、2時間より少ない 3 30分以上、1時間より少ない
4 10分以上、30分より少ない 5 10分より少ない 6 全くしない



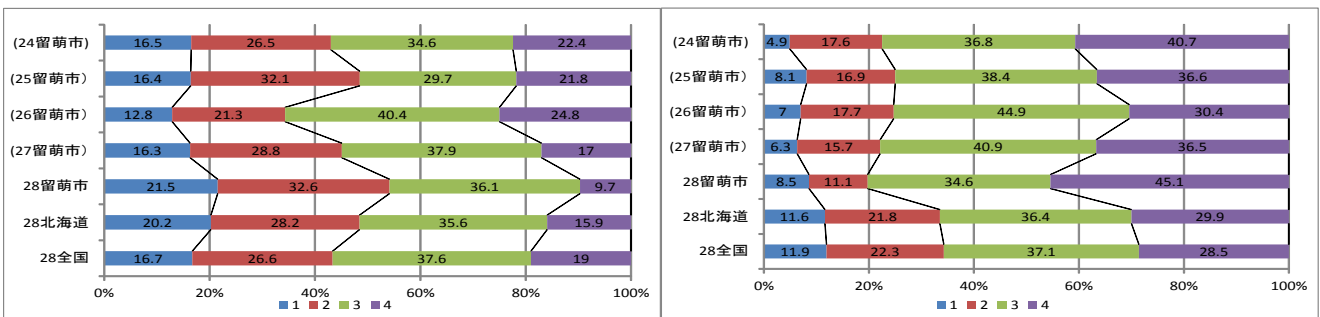
(4) 家で、学校の宿題をしていますか

- 1 している 2 どちらかといえば、している 3 あまりしていない 4 全くしていない



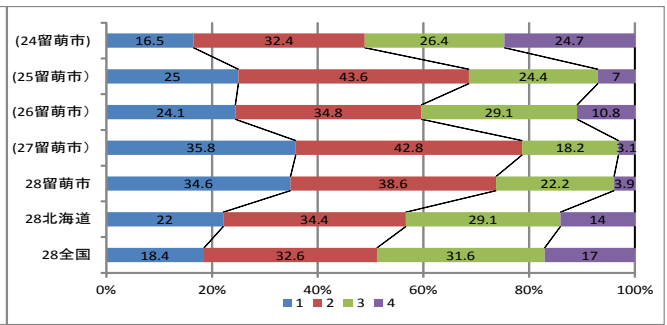
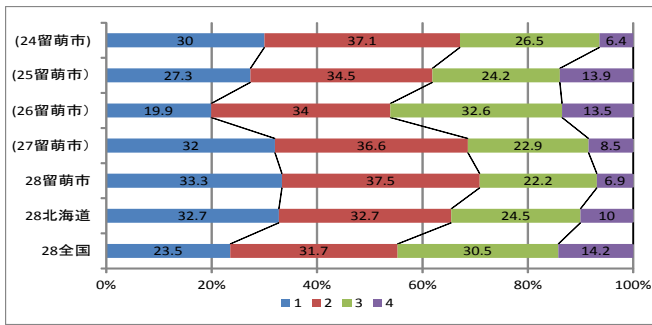
(5) 家で、学校の授業の予習をしていますか

選択肢は(4)と同様



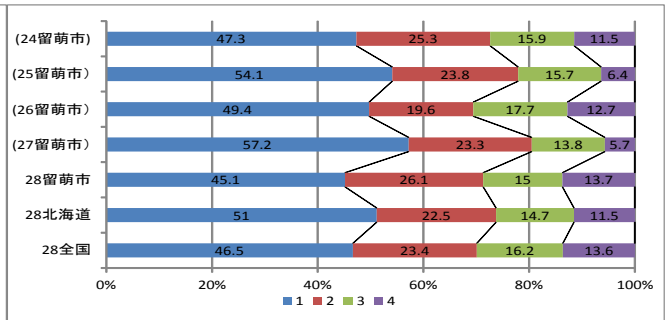
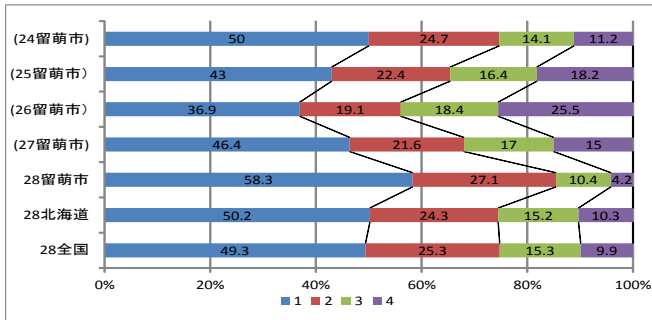
(6) 家で、学校の授業の復習をしていますか

選択肢は(4)と同様



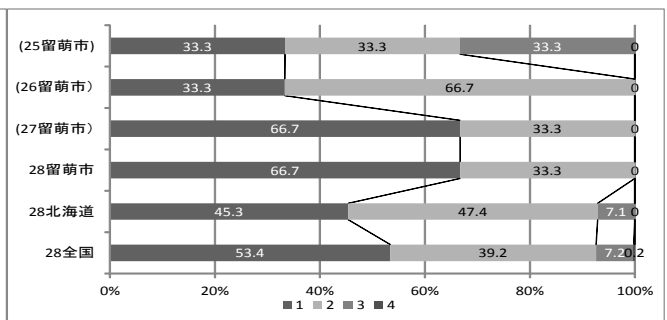
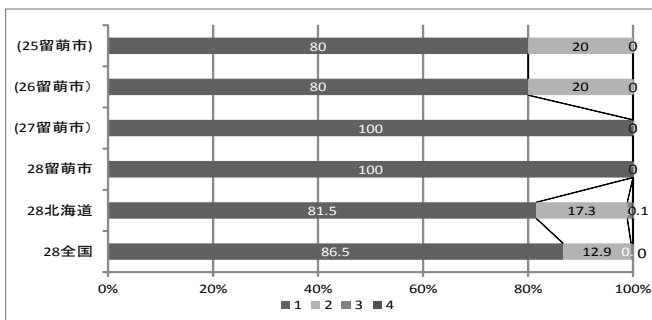
(7) 読書は好きですか

- 1 当てはまる 2 どちらかといえば、当てはまる 3 どちらかといえば、当てはまらない
4 当てはまらない



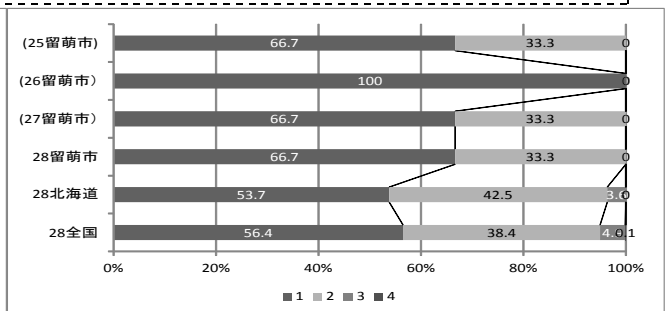
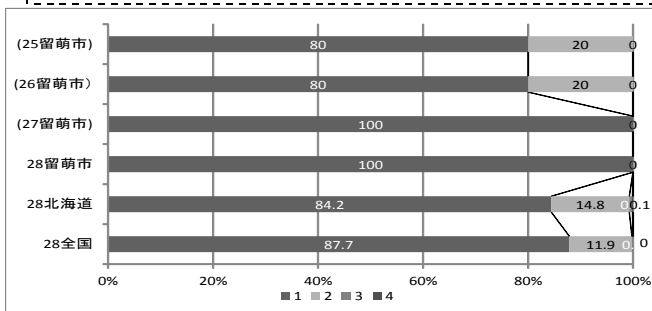
(8) 調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、国語の指導として、家庭学習の課題（宿題）を与えましたか

- 1 よく行った 2 どちらかといえば、行った 3 あまり行っていない 4 全く行っていない



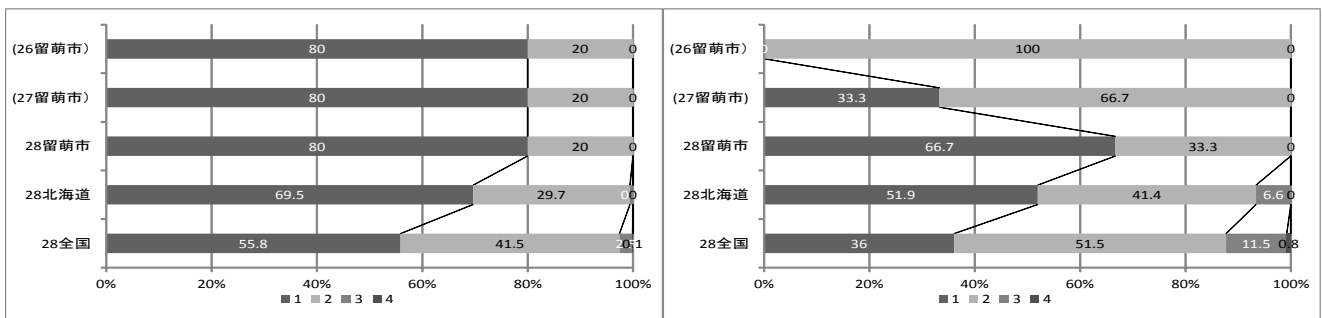
(9) 調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、算数（数学）の指導として、家庭学習の課題（宿題）を与えましたか

選択肢は（8）と同様



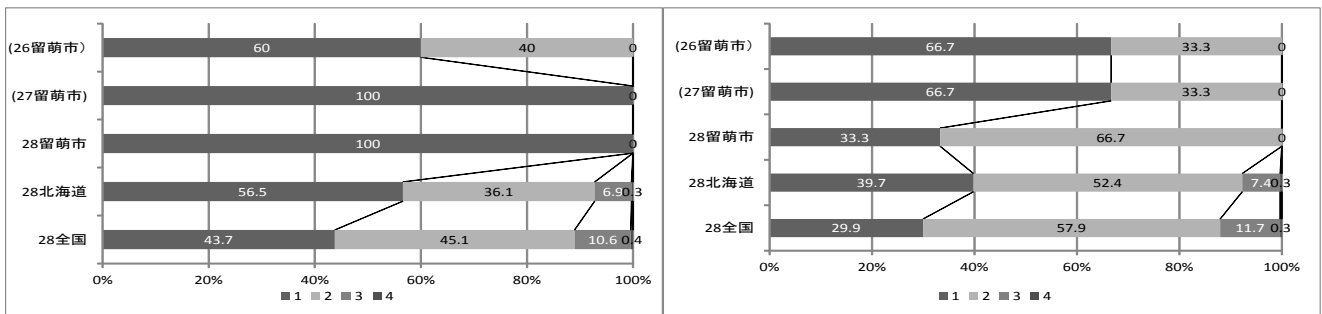
(10) 調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、保護者に対して児童生徒の家庭学習を促すような働きかけを行いましたか（国語／算数・数学共通）

選択肢は（8）と同様



(11) 調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、家庭学習の課題の与え方について、校内の教職員で共通理解を図りましたか（国語／算数・数学共通）

選択肢は（8）と同様



【小学校】

- ・ 普段（月～金曜日）や土曜日や日曜日に、1日当たり1時間以上勉強をすると回答した児童の割合は前年度より相当増加し、また全国より高い。
- ・ 家で学校の授業の予習、復習をしていると回答した児童の割合は全国より相当高い。
- ・ 普段（月～金曜日）、1日当たり30分以上読書すると回答した児童の割合は全国より高い。また、読書が好きであると肯定的に回答した割合も相当高い。
- ・ すべての学校が、家庭学習の課題の与え方について、校内の教職員で共通理解を図った。

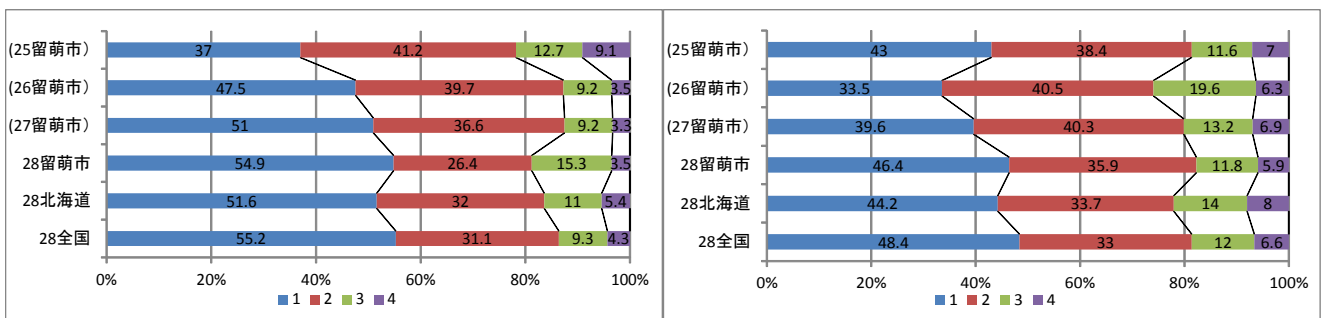
【中学校】

- ・ 普段（月～金曜日）、1日当たり1時間以上勉強をすると回答した生徒の割合は全国より低い。
- ・ 家で学校の授業の予習をしていると回答した生徒の割合は全国より相当低いが、逆に復習していると回答している生徒の割合は全国より相当高い。
- ・ 保護者に対して、生徒の家庭学習を促すような働きかけをよく行う学校が年々増加している。

4 学校生活等＜児童生徒＞

(1) 学校に行くのは楽しいと思えますか

- 1 そう思う 2 どちらかといえば、そう思う 3 どちらかといえば、そう思わない 4 そう思わない



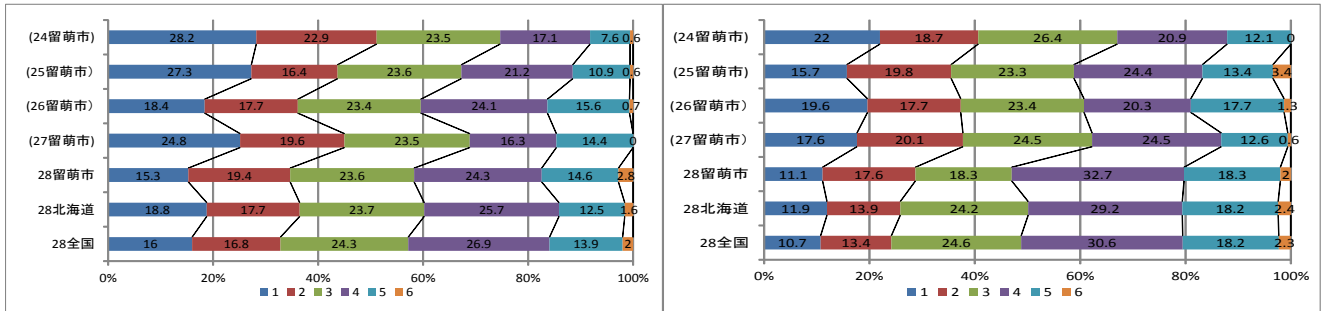
【小学校】

- ・ 学校に行くのは楽しいと思うと肯定的に回答した児童の割合は全国より低い。

5 基本的生活習慣<児童生徒>

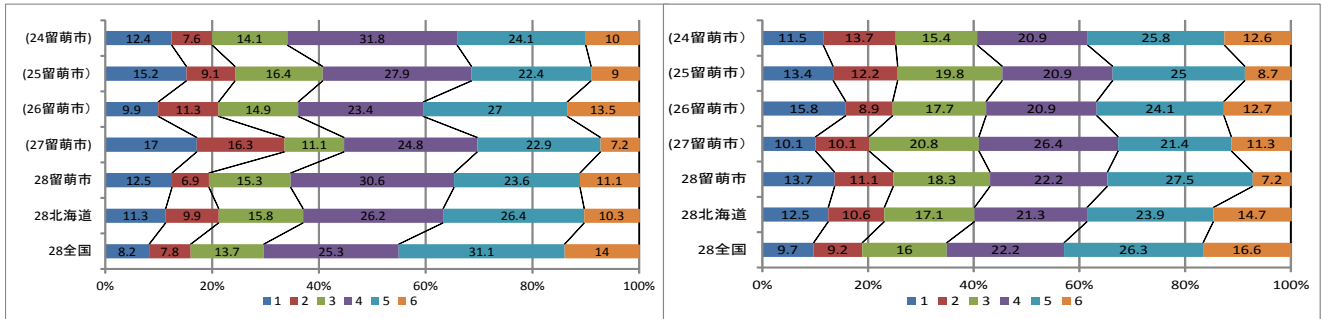
(1) 普段(月～金曜日), 1日当たりどれくらいの時間, テレビやビデオ・DVDを見たり, 聞いたりしますか (テレビゲームをする時間は除く)

- 1 4時間以上 2 3時間以上, 4時間より少ない 3 2時間以上, 3時間より少ない
 4 1時間以上 5 1時間より少ない 6 全く見たり, 聞いたりしない



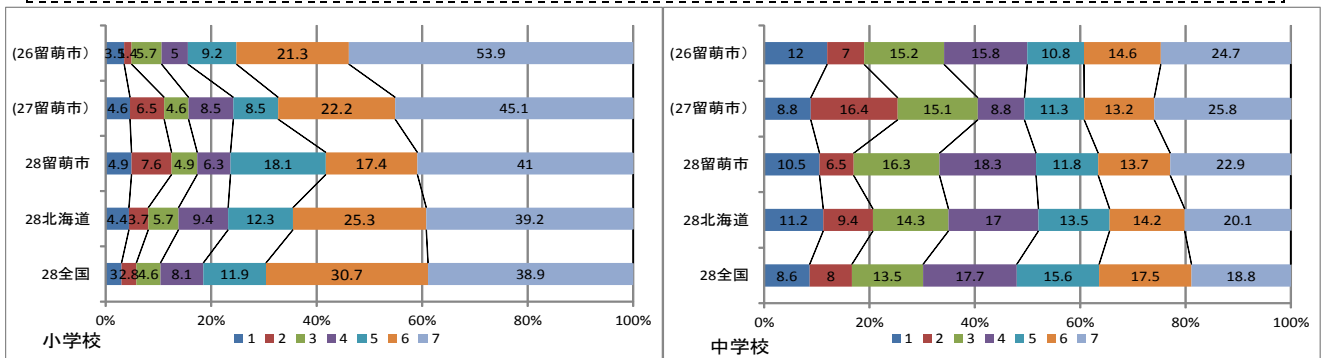
(2) 普段(月～金曜日), 1日当たりどれくらいの時間, テレビゲーム (コンピュータゲーム, 携帯式のゲーム, 携帯電話やスマートフォンを使ったゲームも含む) をしますか

選択肢は(1)とほぼ同様, ただし, 6のみ変更 (6 全くしない)



(3) 普段(月～金曜日), 1日当たりどれくらいの時間, 携帯電話やスマートフォンで通話やメール, インターネットをしますか (携帯電話やスマートフォンを使ってゲームをする時間は除く)

- 1 4時間以上 2 3時間以上, 4時間より少ない 3 2時間以上, 3時間より少ない
 4 1時間以上, 2時間より少ない 5 30分以上, 1時間より少ない
 6 30分より少ない 7 携帯電話やスマートフォンを持っていない



【小学校】

- ・ 普段, 1日当たり3時間以上, テレビやビデオ・DVDを見たり, 聞いたりする児童の割合は前年度より減少し, また3時間以上, テレビゲーム等をする児童の割合も前年度より相当減少している。
- ・ 普段, 1日当たり2時間以上, 携帯電話やスマートフォンで通話やメールをしている児童の割合は全国より高い。

【中学校】

- ・ 普段, 1日当たり3時間以上, テレビやビデオ・DVDを見たり, 聞いたりする生徒の割合は前年度より減少している。一方, 3時間以上, テレビゲームをする生徒の割合は前年度より増

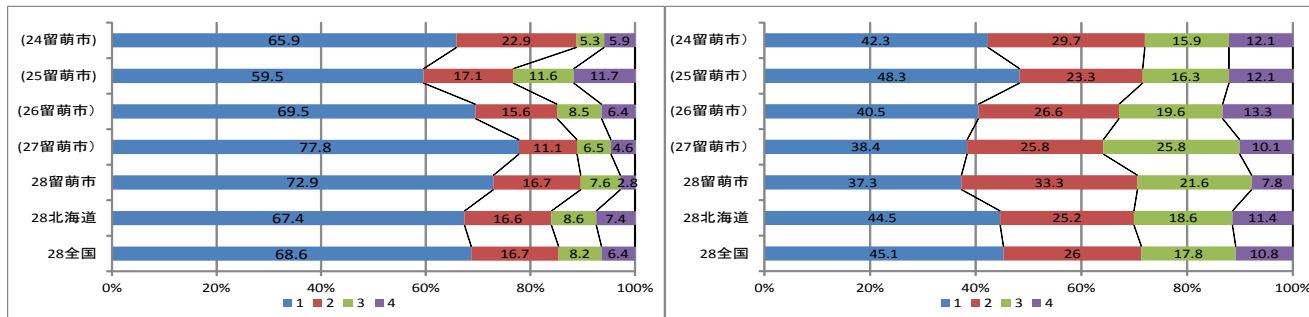
加し、全国より高い。

- ・ 普段、1日当たり2時間以上、携帯電話やスマートフォンで通話やメールをしている生徒の割合は前年度より減少している。

6 将来に関する意識<児童生徒・学校>

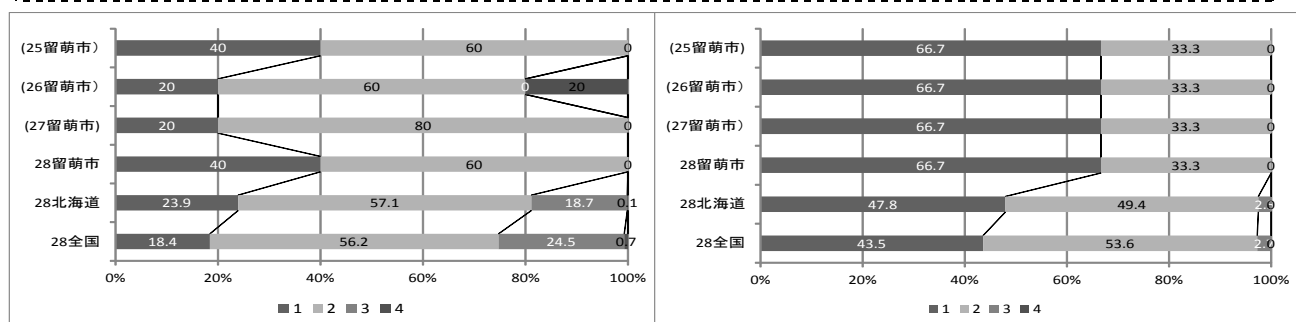
(1) 将来の夢や目標を持っていますか

- 1 当てはまる 2 どちらかといえば、当てはまる 3 どちらかといえば、当てはまらない
4 当てはまらない



(2) 調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、将来就きたい仕事や夢について考えさせる指導をしましたか

- 1 よく行った 2 どちらかといえば、行った 3 あまり行っていない 4 全く行っていない



【小学校】

- ・ 将来就きたい仕事や夢について考えさせる指導をよく行っている学校は増加している。

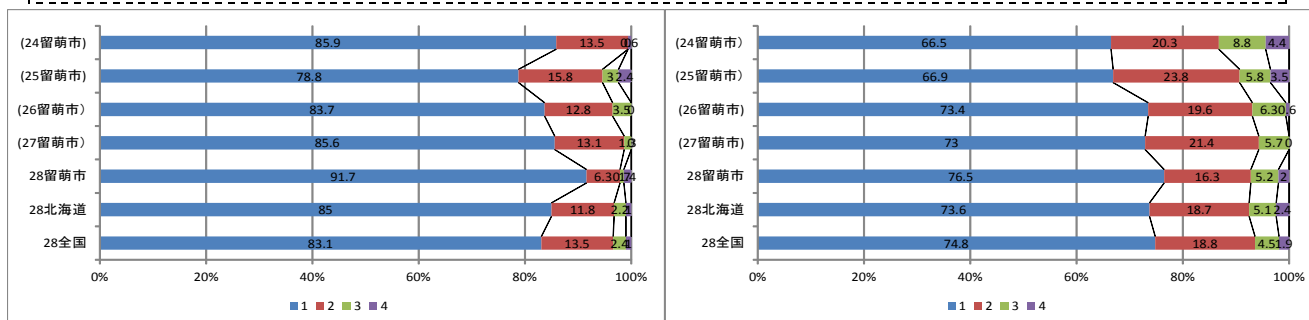
【中学校】

- ・ 将来の夢や目標を持っていると回答した生徒の割合は前年度より増加している。

7 規範意識<児童生徒>

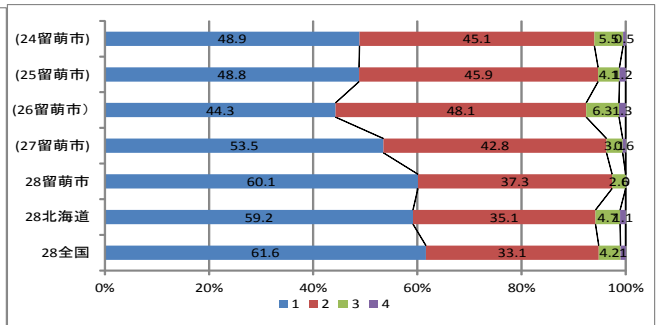
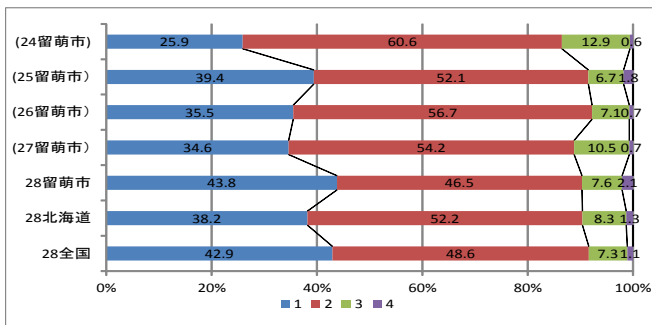
(1) いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか

- 選択肢は6の(1)と同様



(2) 学校のきまり、規則を守っていますか

- 選択肢は6の(1)と同様

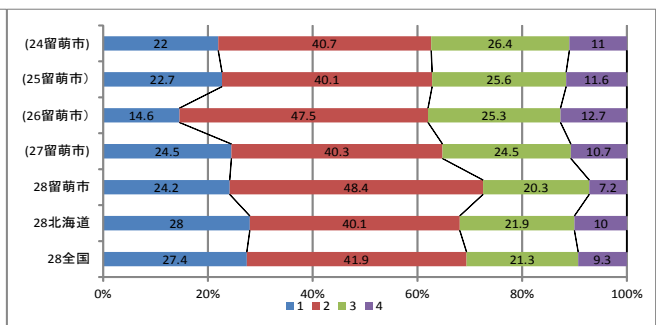
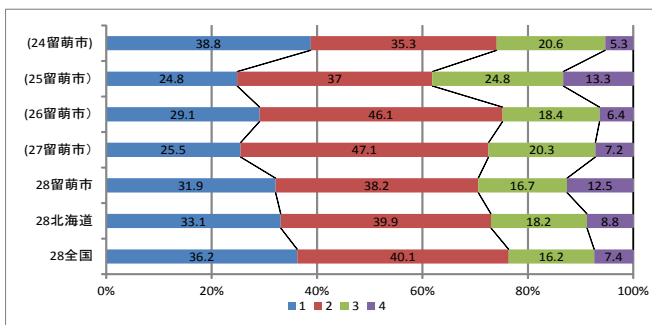


【小学校】
 ・いじめはどんなことがあってもいけないことだと肯定的に回答した児童の割合は98%である。
 【中学校】
 ・いじめはどんなことがあってもいけないことだと肯定的に回答した生徒の割合は93%である。

8 自尊意識<児童生徒>

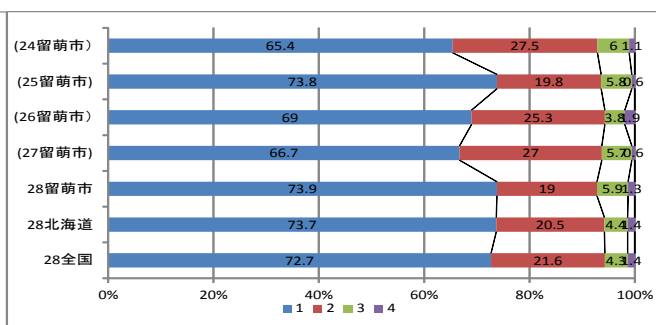
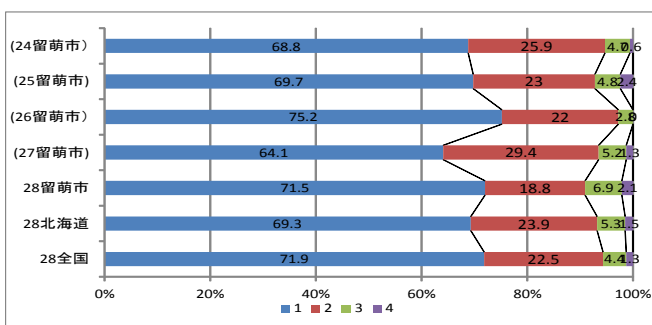
(1) 自分には、よいところがあると思いますか。

選択肢は6の(1)と同様



(2) ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがありますか

選択枠は6の(1)と同様

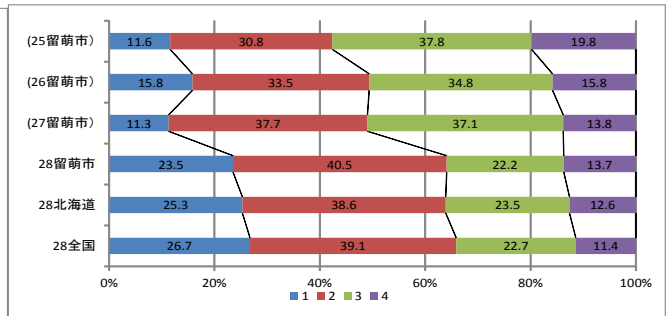
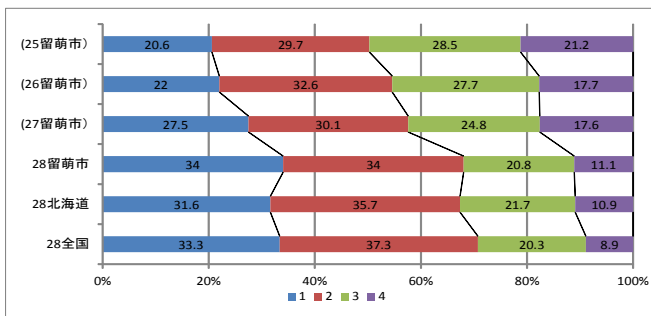


【小学校】
 ・自分にはよいところがあると肯定的に回答した児童の割合は、全国より低い。
 【中学校】
 ・自分にはよいところがあると肯定的に回答した生徒の割合は増加傾向にあり、前年度より増加している。

9 社会に関する興味・関心<児童生徒>

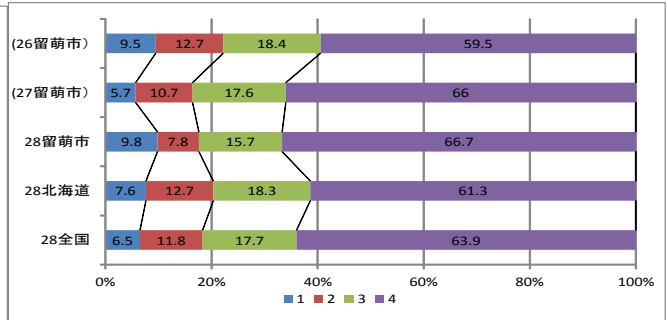
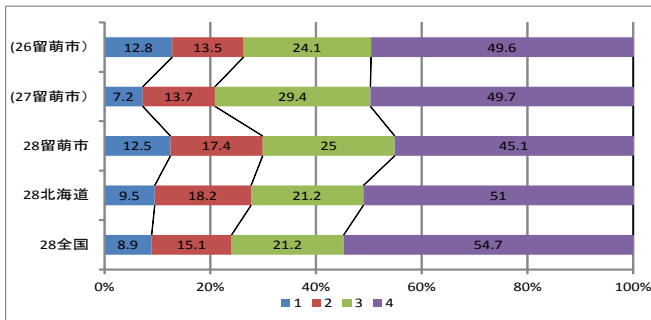
(1) 地域や社会で起きている問題や出来事に関心がありますか

選択枠は6の(1)と同様



(2) 新聞を読んでいますか

- 1 ほぼ毎日読んでいる 2 週に1～3回程度読んでいる 3 月に1～3回程度読んでいる
4 ほとんど、または、全く読まない



【小学校】

- ・地域や社会で起こっている問題や出来事に関心があると回答した児童の割合は増加傾向であり、前年度より相当増加している。
- ・新聞をほとんど毎日あるいは週に1～3回程度読んでいる児童の割合は前年度より増加している。

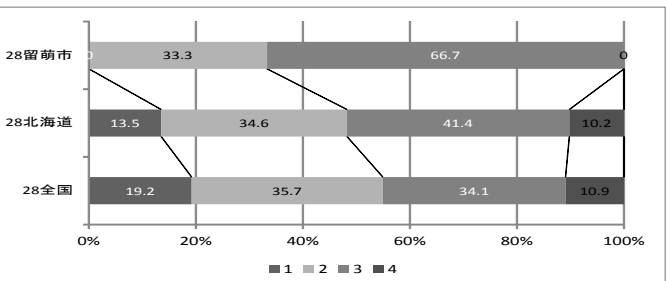
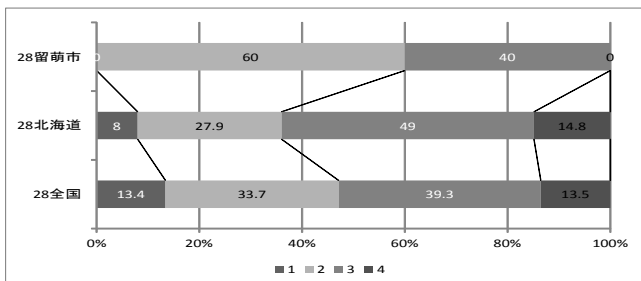
【中学校】

- ・地域や社会で起こっている問題や出来事に関心があると回答した生徒の割合は前年度より相当増加している。
- ・ほとんどあるいは全く新聞を読まないと回答している生徒の割合は全国より高く、また、小学校の児童の割合よりも高い。

10 その他<学校>

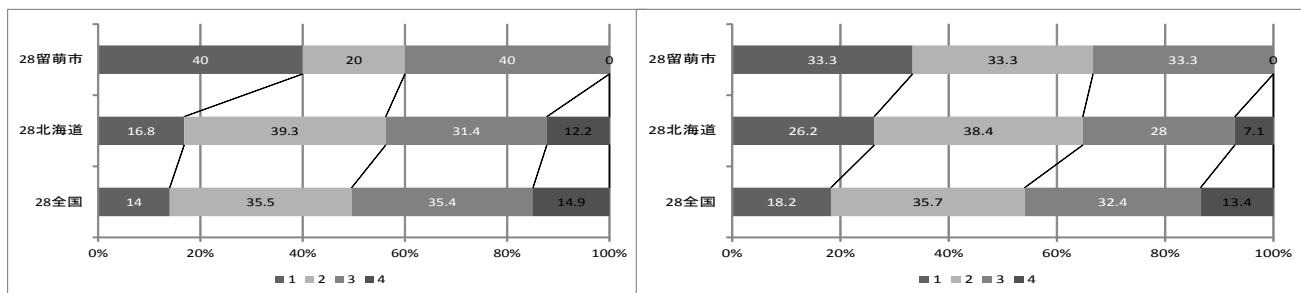
(1) 前年度までに、近隣等の中学校(小学校)と、教科の教育課程の接続や、教科に関する共通の目標設定など、教育課程に関する共通の取り組みを行いましたか (新規質問)

- 1 よく行った 2 どちらかといえば、行った 3 あまり行っていない 4 全く行っていない



(2) 平成27年度の全国学力・学習状況調査の分析結果について、近隣等の中学校(小学校)と成果や課題を共有しましたか (新規質問)

- 選択肢は(1)と同様



【小学校・中学校】

- ・全国学力・学習状況調査の分析結果について、近隣等の中学校(小学校)と成果や課題の共有が行われてきている。

IV おわりに

本報告書は、全国学力・学習状況調査の目的から、留萌市の児童生徒の学力・学習状況を把握・分析し、まとめ、報告としたものです。

また、本調査の結果は、学力の特定の一部であることや、学校における教育活動の一側面に過ぎないことを十分に踏まえた上で、留萌市の学力の全体的な傾向や児童生徒質問紙・学校質問紙から見える特徴的な事項等について記載しています。

留萌市教育委員会と各小中学校では、児童生徒の学力向上に向けて、「学校改善プランの立案と実行」「学校で統一した授業スタイルや学習規律の確立による授業改善の徹底」「指導方法の工夫・改善」「学習サポートの実施」「学習補助員や特別支援教育支援員の配置の充実」「ICT活用を図った授業づくり」など、様々な取り組みを推進・展開しています。

その結果、今年度は小中学校合わせて8教科(A、B別)のうち、4教科が全国平均以上であり、また「全国の下位約25%と同じ正答数の範囲に含まれる割合」も8教科のうち、6教科が全国を下回るなど、大きな成果を上げてきています。今後の課題としては算数(数学)の学力向上であり、特に小学校では下位層への指導、中学校では記述式問題への対応、そして小中共通として、「図形」領域の系統的な指導が必要と考えています。

一方、児童生徒質問紙・学校質問紙では学習内容の確実な定着のために向けて、家庭学習の内容や方法が児童生徒に身に付くように、時間の使い方やメディアとの関わり方等、家庭での生活についての指導を充実していく必要があります。特に、小学校では勉強時間が増える傾向にありますが、中学校では全国平均と比べて勉強時間が少なく、差は広がる傾向にあります。また、小中学校ともに授業の中で目標を明示し、授業の最後に振り返る活動を行うことについては児童生徒と教師の意識の乖離がみられることから、今後も全ての学校で徹底する必要があります。さらに、近隣の小中学校で課題を共有することなどの連携について多少の課題が見られることから、今後も学力向上と生徒指導の両面から9年間を見通して小中連携が促進されるよう留萌市教育委員会と連携しながら進めて行くことが大切であると考えます。

将来を担う児童生徒一人一人に「生きていくために最低限必要な学力」を身に付けさせることが、学校教育に携わる者の責務であります。留萌市教育委員会と各小中学校において、「いま目の前にいる子どもたち」の課題を改めてしっかり分析し、学校・家庭・地域が共有し、連携協働しながら目に見える改善に今後も取り組んで参りますので、ご支援・ご協力を引き続き、お願い申し上げます。